

'95 都市環境デザインモニターメッセ

実施結果報告書

1995年8月

都市環境デザイン会議



# 1. 「都市環境デザインモニターメッセ」実施要項

## (1) 開催概要

名 称	'95都市環境デザインモニターメッセ
会 場	東京・品川天王洲アイランド地区宇部興産ビルU B E ホール 東京都品川区東品川2-3-11
開催日時	1995年7月15日(土) 13:30~18:00 (モニターメッセ) 18:00~20:00 (懇親会)
主 催	都市環境デザイン会議 〒150 東京都渋谷区広尾1-10-4 TEL. 03-5420-5995
モニター	各省庁・自治体担当及び関係者・建設計画コンサルタント・ 建築設計事務所・各種デザイナー・大学教授・建設業・ 造園業・メーカー等(以上都市環境デザイン会議メンバー)

## (2) 出展企業

Aゾーン	Bゾーン
株式会社竹中工務店	日本電池株式会社
株式会社INAX	鹿島建設株式会社
住友軽金属工業株式会社	株式会社サンポール
小糸工業株式会社	黒崎窯業株式会社
大林道路株式会社	金門電気株式会社
株式会社クボタ	岩崎電気株式会社
日本興業株式会社	株式会社大林組
大成建設株式会社	カネソウ株式会社
東芝ライテック株式会社	日本軽金属株式会社
株式会社栗本鐵工所	株式会社旭ダンケ

## 2. 経過報告

「'95都市環境デザインモニターメッセ」は、都市環境デザイン会議の主催により、1995年7月15日(土)午後1時30分から、天王洲アイル地区宇部興産ビル、UBEホールで開催された。土曜日にも拘らず、会員の諸先生をモニターとしたメッセに、参加者の合計は180名となり、うちモニター95名、出展企業側85名が参加し会場は活況を呈した。

同メッセに先立ち、午前10時30分から都市環境デザイン会議の総会が、昨年と同じく天王洲アイル地区M1ビル25階コンベンションルームで行われ、モニターメッセは同地区宇部興産ビルに会場を移し、予定時間どおりに、西沢健氏の開会の挨拶により開始された。

参加企業は20社。(A)(B)の2つのゾーンに分かれ、各社代表が自社製品及び都市デザインの実績等を10分間プレゼンテーションし、それらにモニター側が質問、プレゼン者が応答するという形で、モニターメッセは効率的にスムーズに進行した。

1社あたりの持ち時間は、合計20分と少なかったが、展示パネル、ビデオ、OHP等の機材を使用して説明を簡略にし、内容を凝縮しているだけあって、活発な討議が行われた。熱心な討議の為、予定時間を30分程オーバーして5時50分終了した。

引き続き同会場をパーティ会場とし、午後6時15分から参加企業、都市環境デザイン会議メンバー、そして関係者が集い、南條道昌氏の挨拶で懇親会が始まった。出展企業の紹介も行われ、モニターメッセへの今後の要望等活発な意見が出された。周囲には各社のパネルが飾られ、盛況のうちに進行し、午後8時予定通り全ての行事は終了した。

なお、モニターメッセの内容概略は以下の通り、アンケートの集約結果はモニターの声としてまとめました。

開会の挨拶		西沢 健	(株)G K 設計)
司会(進行)	Aゾーン	岡 道也	(九州芸術工科大学環境設計学科)
		横川昇二	(株)横川環境デザイン事務所)
		下田明宏	(株)ディーエム)
		江川直樹	(株)現代計画研究所大阪事務所)
	Bゾーン	伊藤 洋	(株)都市環境計画研究所)
		林 茂樹	(林建築事務所設計室)
		大塚守康	(株)ヘッズ)
		八木健一	(株)八木造景研究所)
懇親会開会の挨拶		南條道昌	(株)都市計画設計研究所)



都市環境デザインモニターメッセの会場風景



開会の挨拶をする西沢健氏



Aゾーン司会進行 上段左から 岡道也氏、横川昇二氏  
下段左から 江川直樹氏、下田明宏氏



Bゾーン司会進行 上段左から 林茂樹氏、伊藤洋氏  
下段左から 大塚守康氏、八木健一氏



懇親会の会場風景

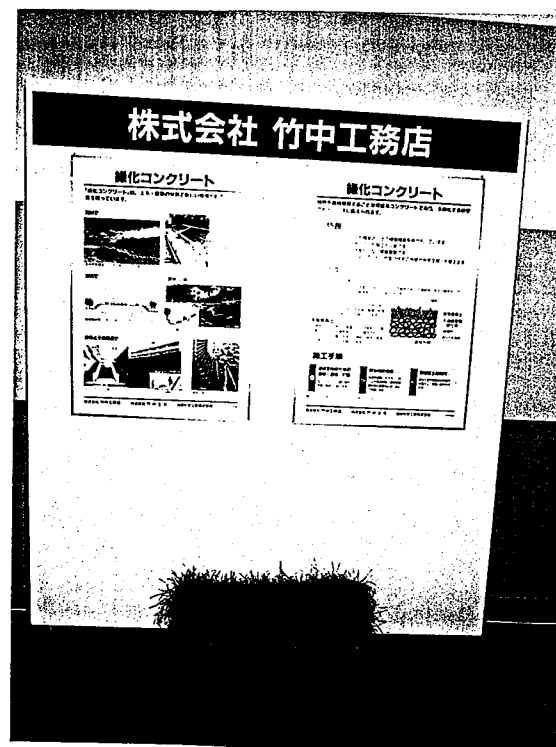
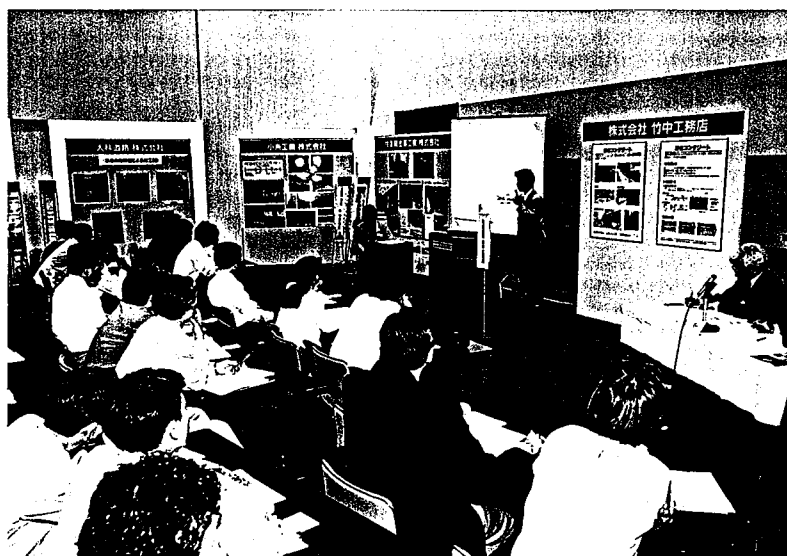


懇親会で挨拶をする南條道昌氏



出展企業名	株式会社 竹中工務店
-------	------------

住 所	〒270-13 千葉県印旛郡印西町大塚1-5	
電 話	0476-47-1700	FAX 0476-47-3040
プレゼン出席者名	大下俊之 佐久間 護 石川健治	



## ● プレゼンテーション要旨

緑化コンクリートとは、コンクリート上に直接植栽が可能なコンクリートのことであり、コンクリート構造物に緑を取り入れる技術の一つとして開発されたものです。

緑化コンクリートは力学的機能を受け持つコンクリートと植栽基盤が合体した新材料で、粗骨材(砕石など)をセメントペーストだけで固めた連続した空間を持つコンクリートに、保水材と肥料を充填して上に薄く土を固着したものです。これに芝やツタ等の植物を直接植栽することにより、河川の護岸、道路法面、擁壁面、建築物の内外壁面、屋上等従来緑化が困難とされた部分への植栽が可能となりました。

主な特長として以下のことがあげられます。

- ① ビル外壁や河川護岸等のコンクリート面に直接植栽して緑化できる。
- ② 土に比べ強度が強いので(圧縮強度100Kg/cm<sup>2</sup>)ので、地滑りや雨による浸食の心配がない。
- ③ 施工が簡単で、面積の大小や緑化面の斜度にかかわらず適用可能

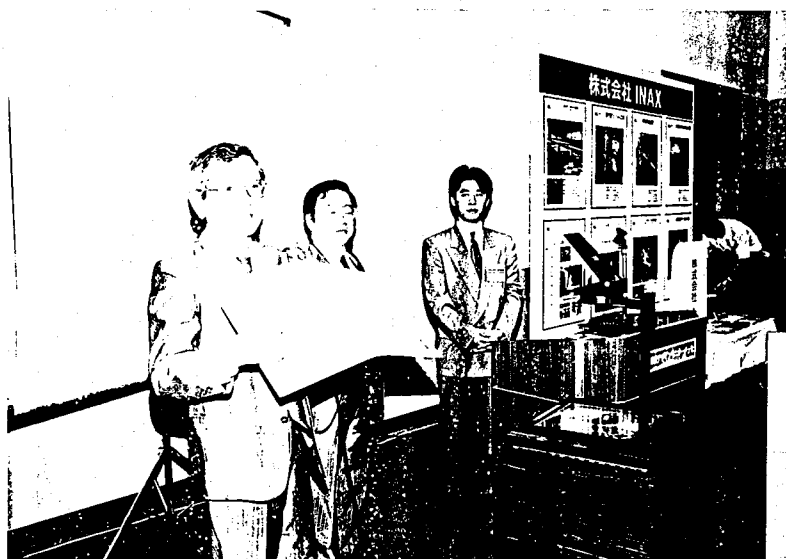
## ● モニターの声 (株式会社 竹中工務店)

- エコマテリアルを具体化するコンクリートには、大変興味があり、設計の自由度が高くよい。
- 発表中の技術開発の経過と結果は大変わかり易く、この物を使う動機と安心感につながる。
- 60° 勾配の植栽は見た目が不自然のような気がします。とてもわかりやすいプレゼンテーションでした。
- 植物の種類が芝、WILD FLOWER 以外にも豊富になるとよい。
- 客土層のメンテナンスに不安があるのではないかと。雨水による流出、子供等による土の削除等経の対応。
- 本物でない点、まがいものである点が気になる。
- 建築等の壁面緑化技術としては可能性あり。但し、環境の化粧技術という側面の方が強い。今後、真のエコロジー技術としての理念(思想)を踏まえての検討に期待。
- 多様な用途が考えられ、むしろ何でもできてしまうと行ったことが心配される。
- 一方、修景に限定せず、土壌のコントロール、平坂性等を活かして都市内の小空間などの限定された空間で、植物、作物等の生産に活用できないか。
- 建築物への適用可能性を判断するにはエージングデータが少なすぎる。更なる経過観察を望みます。
- 植物の密度の高さや表面の歩行感のやわらかさなど良いと思うが、コンクリート法面の表装、うわつつらだけをいじっているだけなので本当にエコを名のっていいとは思えない。
- 護岸等土木工作物への採用可能性が高いと思われるが、今後、省化の問題、メンテナンスの問題など調査結果を待ちたい。
- コスト的に一般タイル等と比較しうるようになれば選択肢の一つとしてみたい。灌木又は地 類等にたいしてはどうか。とくにツツジ類、緑化法面との比較で商品性は。
- 緑化の一つの方法としては、大いに期待がもてるが、60%勾配の斜面に青々とした芝が繁茂する状態は人間の目にとって自然かどうか。
- 自然を清潔に施工できるということですがドームの上などは美しさを(ドーム側)維持するのはむずかしいのではないのでしょうか。無理がないのでしょうか。不自然ないのでしょうか。
- 硬化剤の劣化はどのくらいを考えているのでしょうか。
- 硬化剤でかためられた岩に対して目詰まりおこることをどの程度考えているのでしょうか。
- 現在のコンクリート3面貼りのコンクリート擁壁にとって代わって欲しい。
- 護岸緑化に最適と思う。ウォールにつた(アイビー)では、どうでしょうか。
- たとえば大きな土木工事ではなくて、建築の一部外構として設計し、施工を他のゼネコンがする場合も実現可能でしょうか？
- コンクリートの無機的表面を緑でカバーできることはすばらしい。とくに傾斜のきついところで。コスト高とのことだが、仏のベルシー体育館(大蔵省の隣で美しい建物だった)のように、美しい場所などに実績をつくることから始めて下さい。
- 厚さ表さ5cm程度とすれば法面の昇降の際崩壊しないだろうか。
- 街の緑化促進に役立つアイデア商品と思う。(河川の護岸には、良いと思う)
- 急斜面への緑化が可能なのはおもしろいと思う。ただ植物に対するメンテナンスなどが心配される。また、公園などに利用した時に子供が上に乗ったりすることじゃ可能なのか。芝などの地被植物以外にも樹木にまで自然植生するようならば理想的だと思うが。
- 緑化ブロックではあれ、全植物に可能でなければ。芝のみであれば芝〇〇ブロック。
- グランドカバーのみでなく、中低木も出来ると良い→さらに小動物は生息する？
- 結局、斜面上の緑化に過ぎないのでは？他にも ALTERNATIVE がありそう。直壁上の緑化ができれば面白いが、給水の問題、採光の問題、芝刈りの問題等考えると植物にとっては迷惑な話か…。
- 植物の種類は芝以外にどのようなものが植栽が可能なのか。
- メンテナンス、劣化などの対応はどうか。
- 大変興味ある技術だと思う。コンクリート護岸が緑化することによって、景観は大きく変わっていくと思う。
- なかなか面白い感じで使い次第では新しい可能性があるだろう。ただ、コンクリート(
- 大変興味がありますが、やはり生態系との共生をうたう以上、生態系に対する調査が欲しいです。自治地区と自然地区を結ぶものとしても活用でき、利用幅はかなりあるとは思いますが。
- PC化による安価な提案があれば良いのではないかと。 ○ 3年後、5年後、その先の状態が気になります。



出展企業名	株式会社 INAX
-------	-----------

住 所	〒163 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー22F
電 話	03-5381-7433 FAX 03-5381-7442
プレゼン出席者名	伊藤貞二 井上善示 小林隆志 布目雅彦 田中隆光 戸城慶三 西田幹 澤田敦



## ● プレゼンテーション要旨

### ガイアEXシリーズの新製品紹介

#### 1. アークガイアEXシリーズ

使いやすい150角モジュールと味わいのある色幅を持った公共性の高い舗装用床タイルです。

#### 2. テクノガイアEXシリーズ

ビシャン面状に石材サイズを採用した砂の素材感あふれる大形舗装用床タイルです。


### 公共トイレのアーバントイレの新製品紹介

#### 1. アーバントイレSP

公共トイレに必要な機能をコンパクトに凝縮した、リーズナブルなフルユニットトイレです。

上記3点を中心にプレゼンテーションをさせていただきます。

## ● モニターの声 (株式会社 INAX)

- タイルとして独自の自然感が出せるようさらに研究して頂きたい。
- 空間に対する考え方はアーバントイレではわかるが、タイルとしてのオリジナル性が、今一つわからない。
- 基礎部分についても工場生産によりユニット化できるとよい。無論この場合、現場トイレのように土の上に置くのではなく、基礎部は土中に埋めるようにする。
- 今の状況（基礎は別の状況）では、このアーバントイレが簡易トイレなのか、常設トイレなのか、いずれを狙っているのか不明確。
- ガイアEXシリーズ ・色がまだ人工的な感じがする。 ・すべりにくさとよごれにくさのバランスは？ ・表面の仕上げ感（砂の素材感）と透水性能との関係。
- ガイアEXの“特長”が弱い。すべりにくいタイルが特徴と言っているが、従来品と比べどの程度すべりにくいのか？
- 自然石の価格が下がっている現在、特に外部空間で、タイル系が何を武器にすべきかが問われている。石では使いづらいサイズ。外国産の石が持つ欠点（あるか分からない）をカバーするなどの方向がさぐられる必要があるのではないか。
- 色が淡く、素晴らしいと思う。作為的な色調ではなく、自然界の色調（多少汚れているような）で、長期間あきずに使えるのではないか。
- 磁器質タイル施工は、目地コンクリートの持つかたさやタイル表面の異常な平滑度など、色やテクスチャーをいじくるだけでは解決できない問題点をもっと考えてください。タイル施工後に埋設管の掘り返しなどがあった場合などタイルは特に見苦しい。
- 規格を問わず、単位が一定であることは評価できるが、新製品としての特製（改良点、デザイン性）がわかりにくく、多くの舗装材の中での採用インパクトが弱いような気がする。
- アークガイア、テクノガイア： メンテナンス（耐久性）は大丈夫か。  
アーバントイレSP： デザイン的にみるとステンレス等メタル系プラスチックの方がスマート。  
スレンダーにみえる。形が自由になる。→ これをのりこえよ。
- 公衆便所にまず最初に考えなければならないこと、「清掃のしやすさ」がきちんと考えられた提案のようなので好ましく思いました。
- 平べい単価がどの種類でも同じという考え方は、使う側の人間としては大変良いと思います。
- 屋根についている  の形がどうも自然の中では不思議な感じがします。
- タイルは経年変化しないので何か変化する要素を入れることはできないか。
- 地方の素材を使ったり、形がゆがんだり、すり減ったりする間の抜けた舗装材の研究に期待します。
- 日本中にたくさんの田舎があるのに田舎ではこのアーバントイレは色等なじまないのではないか。ルーラルトイレが必要である。決して和風ではないもの。
- タイル：すべり抵抗値と磨耗の関係はどうか。 トイレ：臭気と換気装置。
- アークガイア、テクノガイアの色調は落ち着きと味わいがありよい。ただ、チューインガムなどが着くと取りにくいのでは？アーバントイレの説明をもっと詳しく、発展的な内容を聞いてみたかった。
- アーバントイレについては、ユニットにしては上品な外観で、景観的には考えられた商品だと思う。ただ、外壁タイルに指定されたパターンしかないのは画一的である。また窓が見られないのも閉鎖的で暗く見える。
- ユニット（トイレ）としては問題は無いが個性が無い。内空はそのまま外観が自由に変えられると良い。開放感が無、アメニティに欠ける。
- ガイアという名前のわりには、かなりソリッドなコンクリートな印象（見た目）を受けました。3段階の色もソリッドな色分けで、ファジーな感じを出すには色ムラがあったほうが良いのでは。
- いままでのタイルは都会的でかたいイメージがあったが、テクノガイアは砂の素材感ということで柔らかいイメージがあって良いと思う。
- アークガイアの濃・中・淡の色は、自然のムラに見えるとよい。
- 質問に出た、地域（開発中？）の土を使ったものはおもしろいそう。
- テクノガイアはハードすぎる感じ。プールとか、使用は限定。街中にあふれるとつらい。みせかけの砂風？レンガとどう違う？もっと素朴さを出せればよいが…。将来、土に還るのか？
- アーバントイレの身障者はやはり入口に段差をつけるのはよくないのではないですが、設計である程度処理できるでしょうが、それではシステム化が完全ではないですね。
- 舗装仕上げ材に対する姿勢はよい。（土をいかす） ○ ソイルセラミックスに期待。

出展企業名	住友軽金属工業 株式会社
-------	--------------

住 所	〒105 東京都港区新橋5-11-3		
電 話	03-3436-9847	FAX	03-3436-9939
プレゼン出席者名	若林良樹 山田吉市 桑原俊作 中田剛史 清水良眞		



## ● プレゼンテーション要旨

当社では20余年に渡ってアルミニウム合金をベースとした高欄・ポール・シェルター及びストリートファニチャーの製作・施工を手がけさせていただいておりますが、ここ数年 構造部材と仕上げ部材の融合を旨とした製品として「アルミハニカムパネル」と「アルミスペースフレーム」を開発してまいりました。ここにそれらを応用した“シェルター・スカイウェイ上屋・アトリウム等”の事例を御紹介させていただきます。

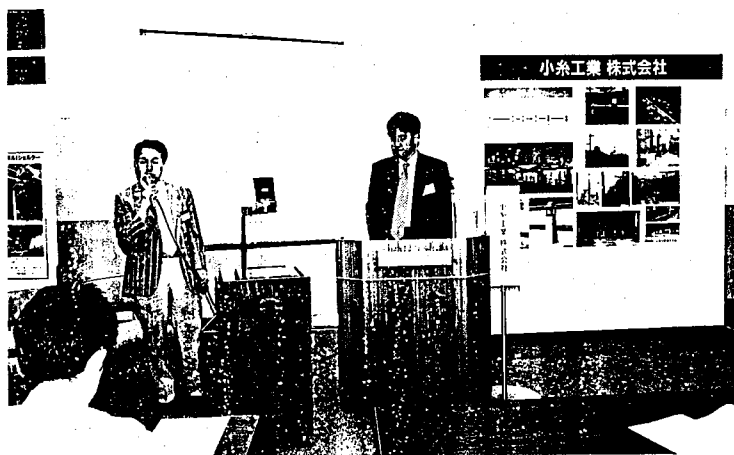
なお当社ではこのような構造と仕上げを一体としたよりシンプルでスレンダーな建造物を「ファイン・ストラクチャー」と呼びこの「ファイン・ストラクチャー」を支えるディテールのシステム化・デザイン化を「ファイン・ディテール」と呼びこれからの景観商品のひとつの流れではないかと思い試行を続けているところです。

● モニターの声 (住友軽金属工業 株式会社)

- アルミハニカムの可能性はたいへん高いことがよくわかった。構造と仕上げを持った材料としてモダンなイメージを演出する材料として考えたい。コストの面ではどうなのだろうか。
- アルミはとても清潔感のある素材ですが、汚れや腐食といった問題になると、他の素材よりも目立ってしまうと思いますが、その辺りのお話しも聞いてみたかった。
- シンプルデザインの素材として素晴らしい。どこかで使ってみたい。
- 一度使ってみたいですね。
- ハニカムにより、さらに薄くできるとすばらしい。軽くみせることに拘わって欲しい。
- 材料としての可能性は非常にある。特に構造と仕上げを一体化している点が評価できる。リブつき（仕上げ）の製品も可能ですか？
- 非常に軽くてうすい素材を活かしており望ましい。ただ、アルミのピカピカでは用途に限りがある。又、コストをうかがわなかったが、高いのでは？ 断熱性は要改善か。
- アルミ表面の質感（仕上げ）に多様性があると使用範囲が広がるのでは…？
- アルミの持つ“軽さ”“しなやかさ”など好印象の部分に特化していて素晴らしい。テクスチャーなど変にいじらず素のままで使ってみたいです。
- 建物間をつなぐ回廊などの柱をとばすことができ、景観的には、今後採用していきたい部材である。
- スマートな部材。いろいろ応用すべき場面がある。費用的には？  
軽量であることが有利に働く場合には対抗力がある。造形作品の素材としても使えるか？
- 構造部材と仕上げ材の融合という視点はすばらしいと思うが用意された素材を料理人が料る気がおきなければ意味がないし、また、いかに良い料理人が料ってくれるかが問題「アルミは弱いという」アルミをかえるような気がします。
- 強度、軽量ということで、新分野に近いところまで展開できることはすばらしい。  
コスト面は割高でしょうが…。
- 風圧どのくらい耐えられるか20m/mのもので。
- もう少しバリエーション。
- デザインの可能性が広がってうれしい。薄さの限界、大きさの限界、軽さの限界、表面材の可能性に挑戦しつづけて下さい。
- カラーのアルミが出来ると良い。
- 自由な曲面と正確な水平面が可能な部材は様々な利用価値があると思う。
- よりコストの低減ができる？アルミ色以外に色彩はある？
- 一面の部分的損傷があった場合の補修方法は確立されていますか？
- 建築部材、輸送機器の構造材としての優秀性は明瞭ですが、外部空間のエレメントとしてはシャープな表現しかできないのですか？
- アルミのいろいろな可能性を実感しました。今後の開発を期待します。
- アルマイト処理だけでなく、またフッ素塗装ではないアルミのよさを生かした表面のカラーバリエーションがほしい。
- アルミ独自の味のある表面仕上げがあればこういったハニカムパネルの利用幅もふえると思います。
- 下地（異種金属の）不要で使えるのが良い！
- 再生利用と言えるのか？（特に接着部分の処理は？）
- オールアルミならおもしろい！ 特に再生利用可ならもっとおもしろい！
- 接着は接着剤か？

出展企業名	小糸工業株式会社
-------	----------

住 所	〒108 東京都港区高輪3-5-23	
電 話	03-3443-6186	FAX 03-3445-0674
プレゼン出席者名	藤田淳一 霧谷幸雄 芝崎正孝 中島徹夫 黒川和夫	



## ● プレゼンテーション要旨

景観事業における道路整備の中で、道路灯もかなりの実績が出来てきました。

小糸工業でも、道路照明、信号機、標識、情報板等の道路空間の景観に係る製品の中で、安全性に対する機能と景観としてのデザイン性の整合に対応してきました。

この中で、近年、人、ゆとり、アメニティなどに対する歩道路照明が重要視されてきております。歩道路照明は、どちらかと言うと、車道照明を軸にして考え、車道灯での兼用、又は、車道灯への共架としてのデザインで進めてきました。

一般に、道路灯は8～10mの高さの位置にあり、昼間においては、ドライバー、歩行者の視野における景観性に寄与してきました。しかしながら、夜間においては、道路交通としての安全性、連続照明における誘導性や光空間の形成などには貢献しているものの、歩行者の視野での考慮に対しては、十分でないと言えます。

歩道整備が推進される中で、歩道と一体となったストリートファニチャーとして、歩行者の視線での景観形成について、低い照明灯のあり方を検討していきたいと思っております。このためには、照明としての明るさ、まぶしさ、素材の使い方など、従来の道路照明と異なった対応が必要であります。

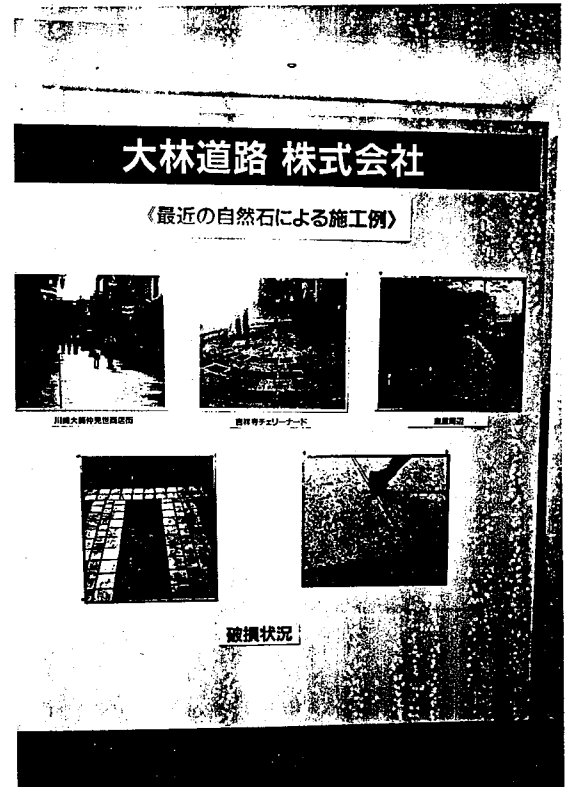
道路管理又は、デザイン、機能などの点について、御意見や提言をして戴ければ幸いに存じます。

## ● モニターの声 (小糸工業 株式会社)

- 人にやさしい、あるいは人中心の考え方で歩行者用の照明を具体化した事例として参考になった。
- 新しい考え方であり、法令、他への影響など個別に解決しなければならない現状もわかった。
- 歩道部に重点を置くというお話しでしたが、車道も含みつつ改善できないものでしょうか。
- 歩道照明を独立した場合、供架に比して ①コスト高 ②ポールが増える。前者については供架と同じにするにはなかなか困難であるが、②はDESIGNの工夫など相当なMERITがないと許容されがたい。
- 歩道照明を重視する姿勢は評価できる。但し、地域性の表現ということで使われているデザイン(モチーフ)に問題あり。
- 歩道照明の明かりは、照明効果の点で評価できるが、一方、ポール等の支柱物の数が増えること、歩道照明に道路関係予算を投入しづらいといった問題がある。メーカーとしても働きかけて頂き、予算の条件向上が望まれる。
- 低位置照明におけるグレアの低減を数値的に抑制する必要があると思う。省エネの視点から、たとえ歩道照明でも光学的制御を行なってゆくべきである。
- ①発光面の輝度グレアの自主規制が必要ではないかと思います。  
②歩道照明を水平面照度設計する発想はすでに古い。  
③バンダリズム破壊行為に対処する方法を考慮して欲しい。グローブや発光面の素材の工夫など。以上のような裏付けの研究こそが必要なのだと思います。
- 現在の歩行空間で、柱の本数を増やす方向の提案には疑問。“明るさ”に対して新しい考え方が見えてこない。
- 歩道照明の提案については、ドライバーへの影響のない範囲で大いに賛成したく思います。ただ、手に触れる位置に灯具があることによって、破損等を防ぐことが求められると思う。素材の検討をお願いしたい。
- 歩行者に近い位置の照明は望ましいが、車の運転書が邪魔にならないことが大切。システムとして、フットライトも含めて考えることが可能。
- 器具を見せる照明具と路面を照らす照明、後者を優先したい。
- 夜間の写真は美しく、着眼点もすばらしいと思うのですが、昼間のデザインが今ひとつ。ストリートファニチャーとしての役割を照明に付加するのであれば、もう少しデザインの向上を期待します。
- 車道用、歩道用がそれぞれ立つということは、照明がりん立しすぎることはないのでしょうか。
- 歩行者に近いところにある照明ということは逆に車にとって邪魔な照明(まぶしすぎる)になるということはないのでしょうか。
- 石の支柱を使った照明等全体にレベルが高いように思われる。車道照明と歩道照明を分ける考え方には賛成だが、ストリートファニチャーの種類と数が増えるのは要注意。
- 街路照明の高さが低くなるのは歓迎。フットライト—今回のよりも下の照明はどうでしょうか。
- 歩道の照明など「なじんだ、違和感のない照明」がすばらしい。夜のみでなく、昼間だって見えるので貴社の展開は良いと思われます。ただ、照明の基準の本質はキッチリおさえて下さい。
- 明るくない照明を。
- 歩道灯は歩道だけを照らせば良い。(ドライバーから見えない方が良い。歩行者からも目立たない方が良い。)
- 街路照明に対して、見直す時期がきていると思います。歩道照明などは場所により、間接照明などのやわらかい明かりにする。縁石などに埋め込む、歩道中央にもってくるなど今いろいろと考えています。
- 歩道照明が増すと柱が乱立する→景観上？
- 照明の配置は、照明のみで景観創出するのではなく、街路空間の各付属物が沿道の建物等のバランスで提案すべきである。
- 道路、歩道照明の明るさ、まぶしさ、素材等の使い方は、いろいろな考え方(例えば、歩道照明を下から、地面から照らすとか)があるのでこれからの私たちの課題になると思います。
- 歩車で照明を分ける考え方には賛成です。但し、その分、人の目に近い位置に灯具が出てくるので、灯具そのもののデザインにもっと気をつかう必要があります。
- 景観といってもあまりみせかけの形にとらわれずに“ヘッドライト”のような照明器具としての“もの”“道具”として味のある照明器具を考えて欲しい。(貴社だからこそ、変に形にとらわれないで欲しい!)
- 基本的には歩道上にモノは多くない方がよい。照明器具が街路の演出を決めていくこともあるが、あまりやりすぎない方がよいのではないかと。
- 車に対する低い照明の配慮についてデータが欲しいです。 ○ 照明の新しい考え方には同感します。

出展企業名	大林道路 株式会社
-------	-----------

住 所	〒106 東京都港区南青山1-24-1		
電 話	03-3796-6508	FAX	03-3796-6519
プレゼン出席者名	大島 剛 嶋崎明代 和合千春 吉田俊介		



## ● プレゼンテーション要旨

最近、景観整備を目的として、商店街、駅前広場、公園等を対象に舗装材料として自然石（主に御影石）を利用する例が多く見られるようになってきています。

自然石は国を問わず古くから、舗装材料として用いられてきました。一般的に言われるのが「使えば使い込むほど味が出る」という言葉です。長い時間で考えた場合、良い素材とうたわれています。実際供用していく中で、表面の凹凸がなめらかになり、又水分を吸収しやすいので周辺の砂ぼこりや汚れを良い意味で吸収し息をしているような素材感が有ります。

しかし、こうして自然石舗装が多く行われていく中、設計、施工の段階において、いくつかの破損及び補修が見られています。実際私どもが施工した中でも、そうした状況が見られています。そこで実例として商店街整備について3ヶ所、景観整備について一ヶ所をあげ、その整備後の状況と、供用後状況、又破損状況とその究明及び補修状況について、ご報告いたします。

今回は以上の様に、悪い面を前面におしだし、それぞれについて、皆様からのご助言等いただければ幸いと思っております。

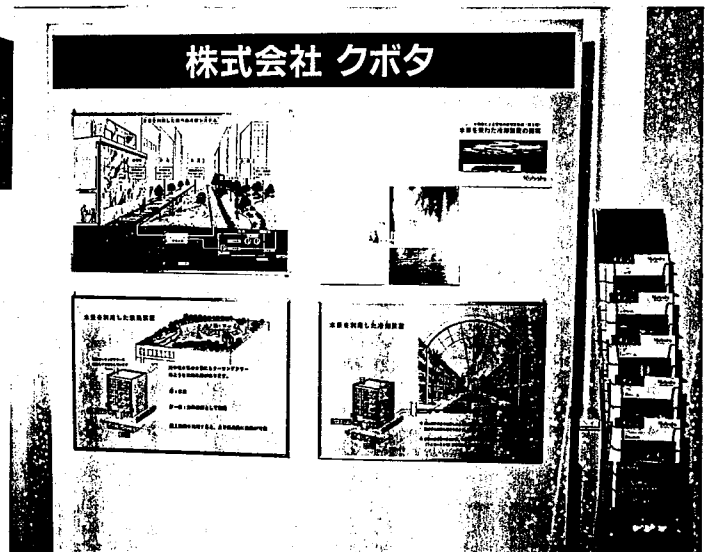
## ● モニターの声 (大林道路 株式会社)

- 施工をする立場での問題提起として、たいへん参考になった。
- 車であれ人であれ、仕上げ材とは別に、舗装構造の研究には今後も期待しています。
- デザインの問題でもある。今後とも私達に対する警告を続けて欲しい。ありがとうございました。
- 施工後の評価はデザインにとっても極めて大切な情報である。特に車道部の舗装についての構造的な問題はこれから多く発声することが予想されるので、そうした情報提供を期待している。
- 私は実施の部分はあまり分かりませんが、景観整備についての我が国の問題をよく突いていただいたと思います。モニターメッセをいろいろ活用する意味で、面白いプレゼンだったと思います。
- 施工者の立場で勇気あるプレゼンであった。デザインを実現させるためのデザイナーに「構造」「機能」という本質を勉強させるよいプレゼンであった。
- 目地材の問題もさることながら、石材の厚みも大きな関係があると思われる。厚みの経済値についても研究して頂ければ幸いです。
- 施工の立場から設計者へのご指摘として貴重。今後とも良い設計、施工で良い空間を。
- 設計サイドに対する憤りのようなものを感じました。メーカーサイドの忠言に耳を傾けないプランナーなり、あるいは、予算的に難しいことも多かろうと思いますが、現場サイドでなければわからないノウハウを今日のように率直に提示して頂けるとありがたいと思います。
- いろいろなバックデータをとられていて今後の新しい路面の考え方を是非考えて下さい。
- 施工されるというところは、多分いちばん大変だと思います。
- 目地がこわれるということがあったのですが、少しこわれる程度は、いつも完璧というよりいいという考えは駄目でしょうか？
- 石の舗装材についてタイムリーな問題提起である。ア.60以上(歩道)を守りたい。
- 車道に、舗石を敷く場合の問題提起なんですが、もう少し深くデータ等を含めて話してほしかった。計画者、設計者も知らない事をもっと知りたく思っています。
- 貴社の姿勢をキチンと出してみるのが良い。  
「インターロッキングという代わりに、アイエルビー(会社名)…」と言わない方が発表では良いのでは。年度末工事、路盤の整備状況、伸縮目地、施工のやり方、施主、設計打合せ等、悩みはお互い多い。
- 車道部モルタル施工(配合と敷設し)は荷重に耐えられないのではないかと。  
下層コンクリートの目地と石の目地が同じ位置にあるべきだろう。
- 設計者と一体となった工事を。
- 自然石をなぜ使用しなければならないのか。メンテの不要な素材を使うべきではないか。
- 舗装材の破損については、あまり考えてデザインする事がなく、貴社の観点には参考になりました。今後もこういった提案を続けて行って頂きたい。
- 舗石の厚さ、深さで破損状況が違うのでは、路面は、ピンコロ(小さく深い)、歩道は大型ブロックでも5cm以上の厚いものあれば、破損は少ないのでは！(表面の美しさだけで景観がとらえられている。)
- 破損の修理方法は？
- 設計側と施工側の協力で問題を解決しなければならない大変重要な事だと思いました。
- このような破損状況のデータは、なるべく公開し、議論し、次の世代に残っていく道路にしたい。
- 基本的に、厚みはもっと厚くなければ(車道)だめだと思う。又、石の大きさの設定も問題なのでは。歴史的に石畳の多いヨーロッパ、プラハ等の石使いと比べると良いと思う。厚く(小さく) t=100は最低必要！
- もっともな話ですね。



出展企業名	株式会社 クボタ
-------	----------

住 所	〒556 大阪市浪速区敷津東1-2-47		
電 話	06-648-2245	FAX	06-648-2204
プレゼン出席者名	樋口恵浩 加藤 孝 深堀賢久 空井一修 初田 誠 木村秀夫 川本武志 山尾 知		



## ● プレゼンテーション要旨

テーマ『水施設による都市の微気象形成』

～第3報（水量を兼ねた冷却装置の提案）

クボタでは、水の持つ性質を利用して限られた空間の微気象を調節する研究を数年前から行なっている。これまでに、噴水等の水量施設を都市の中に効果的に配置する事によって、その周囲をある程度冷却できること、人工的に霧を発生させる事による冬期の放射冷却抑制作用や夏期の限られた空間の冷却作用がある事などを実験的に確認し、都市への水景施設の積極的利用についての提案を行なってきた。

その後、さらに水景施設の微気象調節機能を定量的に把握するため、滝、水面からの放熱性能の測定を行なった。一般に、建物の冷却塔は屋上に設置される事が多く、都市景観に与える影響は無視できない。そこで、水景施設を、「冷却塔の機能を有し、かつ都市景観にも寄与できる装置」として位置づけ、放熱性能についての定量的な把握を試みた。今回のメッセでは、主にこれらの実験結果をもとにいくつ

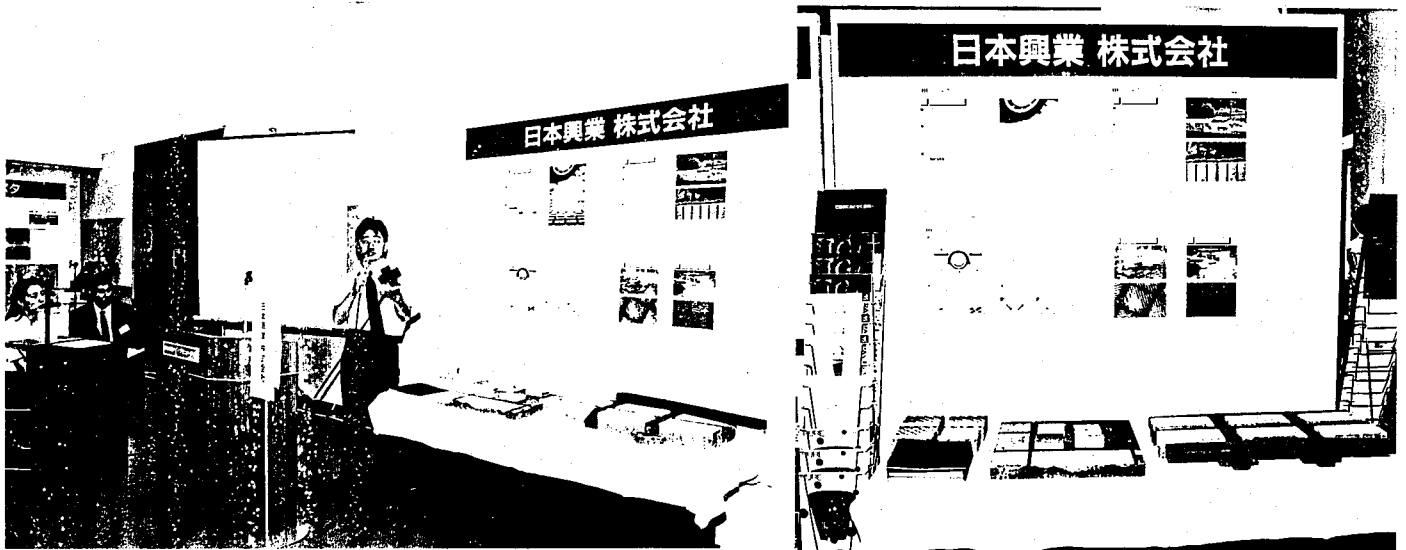
さらに、本実験結果をヒントに、凝縮による屋内の除湿冷房装置としての水景施設利用の可能性についても、考察、および提案を行なってみたい。

## ● モニターの声 (株式会社 クボタ)

- 水景施設は、冷房に近いもしくは、同じ位の冷んやりしたものができるのでしょうか？
- ろ過装置の沈殿物排除することが具体的でないのでは。
- 建物レベル、都市レベルなど色々考えられますし、中水利用、消音、景観、レクリエーション等複雑な機能がもとめられてくると思います。いろいろな可能性も絵にしてみてもうどうでしょうか。その上で他社との共同開発が必要なのでしょうか。
- 屋上に限らず、中間階の外気アトリウム等もおもしろそう。最上階のアトリウムもおもしろそう。緑と絡めたらどうなるか？
- サスティナブルデザイン、バイオクライマティックデザインとして考えてみたら、もっと発展性があるのでは？
- 水環境を生かした総合的な計画へいかす道があるのではないか。景観の視点のみでなく、騒音、効率等総合的環境デザインの方向性をもって今後研究されるとより主体性が高まると思われる。
- アトリウム内の湿度、温度調整機能は、商品性が高いと思います。末端のパッシブテクノロジー的な考え方は評価できるが、そのために相当なアクティブにエネルギーを使うのではないか？
- 実用化をめざして頑張りたい。実施を通じて開発するのが良いと思います。
- 小規模建築、又、都市全体からみた冷却装置のあり方等、次回に期待。
- 興味深いテーマだと思います。ただし、後半の相対湿度を下げる考え方は、相当大きな滝を設けないと効果がないのではないのでしょうか？
- 室内、室外とも水景の設置は今後、ますます増えると思います。
- ①電気の消費 ②水の特長(冷却、断熱等は別に)を生かした空間を作る必要があると思います。
- 都市空間における活用、展開が今一見えない。屋上緑化等を含め、緑地環境との組み合わせによる、都市空間の総合的な水準向上やエネルギー効率の向上、ヒートアイランド問題等への展開、提案を期待します。
- 普及してないのは、コスト以外の要因は小か。屋上に緑を配置するのは良いが水景までの例は、施設用途に限られる。電力ビルあたりから進めるべし。
- アトリウム等の関係は、アミューズメント施設以外でもオフィスビルでも増加するだろう。景観以外に「憩」でも。
- 様々な意味で、価値のある研究だと思う。エネルギー問題、景観問題、音問題も含めて検討を続けて下さい。わが国の古来からの知恵に学ぶものがあるようにも思います。調べてみてはいかがですか。
- 考え方は面白いと思う。もっと説得力のある水の使い方、水景のあり方があるように思う。
- 水のもっている多様な潜在的機能をよりトータルにとらえる必要がある。例えば空気の浄化や都市の雑音の遮断といった点。
- 水景は景観的に不可欠である。更に実用化実験によって、本システムの効果を実証して下さい。  
(データをとって、効果を実証すべし)
- アイデアは良い。コストメリットが、今一つ分からなかった。屋上に滝を設ける案は、受けられないのでは。(庭園の管理、保守も大変ではないか)
- 水音は、新しいノイズにもなりうるものだと思うので音などを含めた環境づくりをして下さい。
- 前年からの進捗状況がわかり興味深い。
- 屋上における水景施設の提案は実現化可能性は高いと思われる。しかし、水景設備の重量、水の重量等荷重をささえる建築構造の問題、屋上部の水もれ防止の問題等をクリアにする必要がある。コスト高とこうした問題を解決するコストをかけても余りある付加価値をアピールすることが必要。
- 発想の視点はよい。○夏の時期の水のにおいはどうするのですか？
- 水景として水だけの造形化でなく、建物や壁、植物等と一体化した水景を考えて欲しい。
- クーリング機能だけでなく、都市騒音を水音で消す等の効果も活用せよ。屋上だけでなく壁面も利用し、地上↔屋上の循環システム。屋内大空間水景は今後増えるだろう。屋外も未開発。
- 規模の大きなテーマで是非実現して下さい。

出展企業名	日本興業株式会社
-------	----------

住 所	〒105 東京都港区浜松町1-2-12 F1ビル	
電 話	03-3438-2535	FAX 03-3459-6977
プレゼン出席者名	菅沼栄治 横田辰也 藤谷康	



## ● プレゼンテーション要旨

日本興業では「美しく豊かな環境づくりに貢献する」という理念に基づき、次に紹介する緑化部材を開発いたしました。

### I. グラススペーサー（舗装面緑化用スペーサー）

I-1 開発コンセプト・舗装面を緑化する事により、自然と調和するアメニティ空間を創造する。

#### I-2 製品特長

- 踏圧軽減構造・芝草に直接踏圧が作用するのではなくブロックにて踏圧を支持。
- 芝草生育促進構造・連続した土壌となっており左右及び下部へ根の進入が容易で排水性も良く、ポラスなコンクリートにする事でより芝草の生育を促進。
- 土壌硬化防止・ブロック単体に踏圧が作用する事により土壌の硬化を防止。（この作用は現在試験施工により確認中）
- 温度上昇低減・舗装面が緑化される事により不快な照り返しや温度上昇を緩和。
- 汎用施工性・製品モジュールを当社舗装材に合わせ、様々な施工パターンを可能にした。

### II. プランツウォール（PC土留めブロック）

II-1 開発コンセプト・家並みを引き立て、街並みに映える植栽ユニット。

#### II-2 製品仕様とラインナップ。

- 天然骨材仕様表面ショットブラスト仕上。
- 形状（デザイン）2タイプ。サイズは3バリエーション。階段状のレイアウトも可能。

● モニターの声 (日本興業 株式会社)

- グラス Spacer 的な考え方は最近の考えの中ではとてもいいと思います。
- ポーラスの目詰まりは考えられないのか？ 目地の部分にコケ編というのでもいいかと思われます。
- ①ブロックに足がひっかり歩きづらくないか。 ②車が走ればブロックの沈下があるのでは。 ③芝踏まれて植生むずかしいのでは。 ④景観だけではうまくないのでは。
- 明確に答えを出せる人を一人は前に出して欲しい。データが欲しいです。特に下の土壌の違いや気温変化等においても対応できるという基本データをだして欲しい。
- 自然にやさしいとは一面にあるのではないと思うのでせめてタイヤの乗る部分と比較的乗らない部分でのモジュールをかえていければいいように思います。
- グラス Spacer、なかなか良さそう！モジュールの件は是非考えて欲しい。  
プランツウォール、少しあきがきそうなのが心配！  
ペイブロックアイ、スロープに使ったらおもしろそう（車のスロープ）  
メタコン、もう少し易くならないか。ものはおもしろいが。
- 開発主旨については評価できる。保水性と植栽についての具体的なデータ（実験データ）がほしい。  
ハイヒール、身障者等種々の利用者への配慮が必要ではないか。
- Spacerを開発することによって、舗装材を選ばないところが画期的ですが、植物(芝)の根が入っていける位のポーラス空間があってもよいのでは？もっと小さいSpacerでも良いか？
- パターンを増やすSpacerの開発。
- メタリック舗石のコンクリート板等高度な仕上げは建築の外装材にも使えるのではないか？
- PC土留めブロックがよくわからない。グラスSpacerは、芝以外のものを使えるとか、何かもうひと工夫欲しい。
- メンテナンスについてのデータ（芝刈りはいるのか、3年後、5年後どうなるのか）についても示してほしい。
- メタリックコンクリートはおもしろい素材だと思います。価格面で折り合いがつけば是非一度使ってみたい。
- ①歩行性、芝生の育成の面で検討していただきたい。  
②その他、ペイブロック・アイやメタリックコンクリートの詳しい紹介を聞く時間がなくて残念です。
- 作ろうとしている環境、製品化されようとしている部分の主旨は大変良いと思います。多くご指摘があったように未だ改善や多様化について開発が必要と思います。
- 面白い。ハイヒールや中ヒールでも日本の女性はどこでも歩くが、歩行性はOKか。車椅子で動くことはどうか。今は少ないとしても高齢社会になり、高齢者が車椅子で移動することは増加する。
- Spacerが入らない所と入る所では、・芝の生育に差がある。・歩行中に差がある。等の問題あり。さらに検討を要する。
- ペーパメントとしてやや頼りない感じがする。精度が高すぎるのではないか。もう少し、ラフな使用にも耐えるものがほしい。ペーブロックA1は、使ってみたい表情をもっている。
- 芝の維持管理上の問題はないか？芝刈りは？ 歩行者（ハイヒール）、車イスに対する対応は？
- Spacerのモジュールをもっと広汎に用意しては如何？
- 歩きにくい舗装面になりそう。（公共の場所では使用が難しいのでは）
- 新しい舗装材、緑化資材の紹介があったが、グラスSpacerのモジュールについて、施工性に問題があるように思われる。端部でSpacerを切り取った場合に、Spacerの機能が低下するのでは。
- 現在の技術をベースに手堅くまとめており、おもしろい。
- 色々な商品を開発しておられることを評価する。いずれも不快感がなく、好感できるが、環境のもつきびしさ、荒々しさの面も考えて欲しい。
- グラスSpacerとブロックの2段階施工が若干気になる。コストアップになる？
- 実際に、目詰まり、保水性に問題がなければ、面白く、かつ採用してみたい商品です。
- あまり新鮮味のない無味無臭のような気がする。デザイン的にも種類が少なく、バリエーションの発展等の話しをもっと聞きたかった。

出展企業名	大成建設株式会社		
住所	〒163-06 東京都新宿区西新宿1-25-1		
電話	03-3348-1111	FAX	03-3340-3997
プレゼン出席者名	町井 充		



## ● プレゼンテーション要旨

パリの例に顕著なように、都市の構造は様々な社会的、文化的意味歴史の中で重ねて行く過程で形成される。この重ね合わせによる場所の意味の強化が、都市の構造として現れる。開発委員会の当初から、赤レンガ建築群は、この「工房」の象徴であり、また札幌の歴史を通してこの場所に存在し続けたと言う意味で、札幌市の重要なランドマークとして計画されるべきだと、私達は考えた。札幌市には歴史的建物はそれほど残っていない。数少ない歴史的建築物の1つが、サッポロビール園として有名な、もと製糖工場、後にビール工場に転用された建物である。サッポロビール(株)は、この建物を英断をもって保存し、札幌市民の資産として活性化した実績をもつ。サッポロファクトリーの計画では、この成果を踏まえ、サッポロビール園とこの敷地を含む地域を、開拓使の記録を刻んだフロンティアタウンズとして、札幌の中に顕在化することを目指した。それは、この赤レンガ群を真の意味でランドマーク化し、北3条通りが開拓使の道であることを顕在化し、旧永山邸を含んだ地域を旧北海道庁との関係の中で構造化することであった。このことについても、札幌市の全面的な支援が得られ、再開発地区計画での位置付けの他、北3条通りを整備し、観光資源とする「ロマネット」構想が市から打ち出され、敷地周辺部分は、サッポロファクトリーのオープンと同時に完成した。

## ● モニターの声 (大成建設 株式会社)

- サッポロファクトリーを作られるにあたり、いろいろな過去からの考え方や思想などをつみあげておこされた結果がこのデザインなのだということがよくわかりました。
- ものの考える大成さんのプロセスがよくわかりました。一人の考え方でまとめないという考え方は本当にそう思います。
- 古いレンガ造を活用したプロジェクトとして古建物をあつかう上での裏話を話して欲しかったです。技術的にも難しい点が出てきたんだとは思いますが。
- 単なる地域イメージの継承でなく、都市のコンテクストに組み込まれた場所性を活かした計画として、なかなか面白いプロジェクトであると思われる。地震に対しては大丈夫ですか？(神戸の例では、せっかく保存再生していたものが、全て壊れてしまった。)共同作業の件は良いと思う。
- 歴史的な資産をうまく活用させており、今後の都市づくりへの示唆となる点が多い。
- アトリウム内の植物の育成状況はどうか。
- 都市計画的なコンテクストの中の開発という点は、評価できる。
- 雪についての質疑が興味深かった。
- 煉瓦造の構造補強をどの程度実行すべきか？というのは深刻な課題。私自身の作品が阪神大震災で大破した経験を踏まえまして…。
- 是非一度見学に行きたいと思う。
- 施設として内向的なのではないのでしょうか。北3条通り側のしつらえは、もっと別なやり方があるのではないのでしょうか。
- 計画の主旨に大いに賛同します。
- ファクトリー開発の背景にある都市計画的(歴史保存的)側面の一部がよく理解されました。開発の内容うんぬんは別の場でしたいと思います。
- 都市環境デザイン会議用にサッポロファクトリーの開発物語をありがとうございました。
- ファクトリー空間やプール棟でお世話になり、全体計画他は本や講演で知っていましたが、街づくりの「場所のアイデンティティ」や「都市のコンテクストの御会を計画の中心に」ということは、今日の会合でよかったと思う。
- モニターメッセに参加下さり、ありがとうございました。
- 伝統的建築部を現代の生活の中に再生する試みは大変よいと思う。
- アトリウム内のランドスケープにもう少し新しいコンセプトの導入が必要だったのでは。
- 一度訪問してみたい。計画のコンセプトを聞いてから訪れることで、再発見がありそうだ。
- 札幌に出向いた時には、見学してみたい。
- アトリウムは、雪の多い札幌にとって、まさに公園であるが、現実には緑の部分が貧弱。量ではなく、見せ方で緑＝樹木・花の景観づくりがあと一歩進めていただければと思う。
- ご主旨、ご主張に基本的に賛同。
- 「えびす」よりも好感が持てるが、東京と札幌の差(人口)がもろにでてしまって残念。
- あらゆる意味で物議をかもした施設ですが、とにかく一度訪れたいと思います。
- ブルヌーイの法則は関心しました。他の所にも様々な工夫がされていそうでその辺りの話も聞いてみたかった。

出展企業名	東芝ライテック株式会社
-------	-------------

住所	〒140 東京都品川区東品川4-3-1	
電話	03-5479-3953	FAX 03-5479-3959
プレゼン出席者名	大野 功 渡辺元夫 金子直礼 富永 守	



## ● プレゼンテーション要旨

都市に暮らす人々にとって、夜は、昼間の仕事から開放された、安らぎ、そして個人への回帰の時間帯である。都市空間のあかりは視覚を通して人々へ安らぎや、快適な環境を提供する重要なツールの1つと考える。また、夜間の都市空間は演出の舞台であり、演出をする為の様々な照明器具が採用されている。

これを季節や時間帯等に応じた演出制御をすることで、その場にふさわしい快適な空間づくりができる。この為当社では、「快適で美しい光環境づくり」、「TPOに応じた景観・空間づくり」のツールとして、“都市景観照明制御システム”を提案する。

今回出展の制御システムの特徴は、

- ①白熱灯器具、HID器具やLED等の様々な演出器具を、調光シーン、点滅パターン制御ができる。
- ②複数の独立した演出空間を、各々専用のタイムスケジュールでシーン、パターン演出ができる。
- ③様々な外部機器（音響機器、親時計等）からの信号でシーン、パターン演出が可能なインターフェイスを有する。
- ④エフェクト等の動きのある特殊調光制御が可能である。
- ⑤街路灯などのランプ不点検知、ブレーカのトリップ等の異常警報といった設備の維持管理に必要な監視情報がセンターでモニターできる。

などがあげられる。

## ● モニターの声 (東芝ライテック 株式会社)

- 明かりを動かすということがパブリックスペースにとって良いとは限らないのでは…。
- この機能（制御システム）は、とても素晴らしいと思います。
- 汚れても、年月がたっても、そこそこ美しい器具というものが、必要ではないでしょうか。それは形というよりも素材というものを考えていかれてはと思います。
- 小さな空間への対策として街具等に組み込む形でマस्पロダクトを検討できないのでしょうか。
- 省エネやメンテの為の省力化としては仲々良いと思う！特に火との移動等で差の出るところ。(時間的に)
- 景観調整もおもしろいが、適度に！なぜならば、自然との対比等のしみじみとした感じが、ややもするとなくなってしまう。(梅田スカイビル等)
- 制御システムを今後の利用可能性が高いと思われる。ただ、当システムを過剰に利用することにより、非人間的な、夜間照明とならないように充分留意すべきである。
- 調光することによって、どういう演出ができるのか。どういう心理的なインパクトがあるのか。もっと具体的に説明してほしい。
- 制御するのはよいが、もっと照明をおさえる方法を検討したら。
- 技術的に多くの可能性があるだけに、設計者側に自制心が求められている。間違えば大量の光の粗大ゴミをつくることになりかねない。
- 公共空間、ポケットパーク、通常の道路、商店街等で使えるシステムの構築。
- どのような制御方法でどんな心理的效果が得られるのかについてもモデルパターンの示して頂きたい。
- 商店街や公園、橋などの照明について考えているところなので大変参考になりました。小規模の所でも使える、安くて簡単なシステムを作ってほしい。
- 公共性の高い設備メンテナンス。演出についていろいろなパターンを期待します。
- 技術開発はどんどん進めていただいた上で、都市空間における活用については、トップメーカーとしてのコンセプトを持っていただきたいと思います。すなわち、何でもできると何でも欲しがる人がいますので、使ってよいとこ、よくないとこをよくお考えになって下さい。
- 楽しいプレゼンでわかりやすかった。特に光、(OHPで細かい表は見にくかったが)ハードより各場面ごとの使い方を訴えた方がよかったのでは。
- 小空間への適応可能性を高めるべき。トラブルを発見するだけでなく、トラブルを解決するシステムも併せて提案して欲しい。器具がこわれてもなかなか取り換えない実態もある。
- 光の質が自由にコントロールできておもしろいと思うが、エクステリア空間であまりやりすぎるとかえって光公害になる恐れがある。
- 照明制御システムを公共空間に利用する場合、維持管理上の問題はないか？
- 調光、点滅制御による演出を公共空間に持ち込むのは、過剰演出であると思う。商業空間に利用することに限定して欲しい。過度な演出は、住民として疲れる。観光に訪れた人には面白いだろうが…。
- システムの値段が気になります。レインボーブリッジや別府公園のような規模が大きいものは良いと思いますが、安価で小規模な広場や公園向きのものはないでしょうか。
- 新規性がなかった。 ○ メンテナンスフリーに
- 別府公園のライティングにみられるように、樹木の成長を抑制しないシステムの開発が可能なら、お願いしたい。
- 公共空間において、あまり操作的な演出は必要としないし、望ましくもない。たとえば祭りのときは、提灯の方が嬉しいし、望ましい。20年、30年は使用に耐久、(日常的に)よく用いられた照明と照明方法に関し、しっかりしたシステムを確立して欲しい。
- 景観照明において、その実現を最も困難にしているメンテナンスに明るい話題であったと思います。それとは別に、LIGHTINGにおける色盲対策ということをお考えでしょうか？例えばLEDの光色は、色盲、色弱者には識別できません。御一考下さい。
- 事例を挙げたほうが、やはりわかりやすいのでは。



出展企業名	株式会社 栗本鐵工所
-------	------------

住 所	〒550 大阪市西区北堀江1-12-19	
電 話	06-538-7628	FAX 06-538-7751
プレゼン出席者名	柳原弘樹 岩橋健二 阪森久志 横山あおい 竹内茂	



## ● プレゼンテーション要旨

### 阪神大震災の私達のものづくりへの教訓

私達は鋳物を使った景観資材をデザインし作ることから始まり、単なる鋳物のパーツだけのデザインでは美しい風景を作ること考えた時に、不具合のおこることを様々な形で経験してきました。そして異種金属から異種素材等様々な材料を使ったパーツデザインへと推移し、更にパーツデザインだけでは、人のいる風景を逆に台無しにしてしまったり、土木構造上とり合いのよくない形等の苦い経験を経て、橋架そのもののデザインをはじめ、公園の設計、風土のよみとりをはじめとするコンセプト作り等、美しい日本を作る一員としてトレーニングを積み、ものづくりをしてきました。

私達はこのような事業展開を創生期から神戸で推進させていただき、現在の事業地盤は神戸での経験が基礎となっていると云っても過言ではないと云えます。そして今回の阪神大震災により、神戸は我々に港湾・河川・道路・公園等公共施設には何が必要、不要なのかを教えてくださいました。即ち、ストリートファニチュアの構造・土木構造物とのとりあい等、あらゆる角度から今までの物づくりに対する反省と、新たな姿勢を問い直せと教えてくださいました。

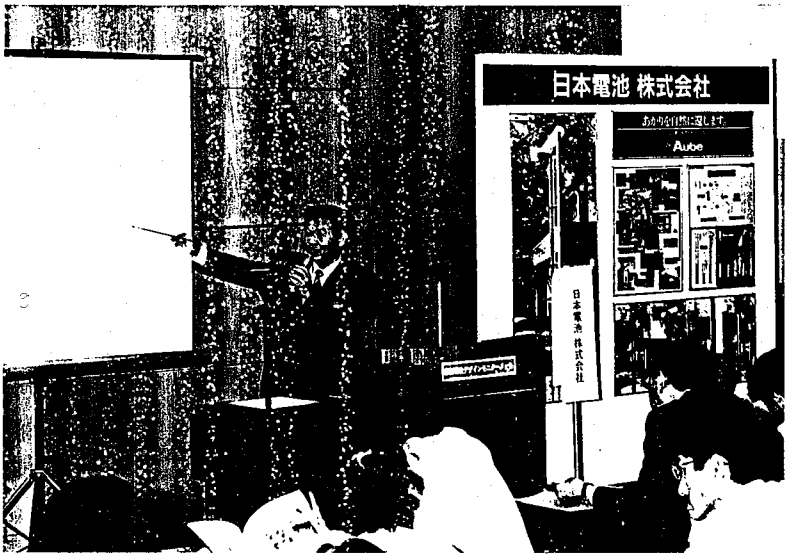
神戸が復興に向けて立ち上がり進んでいく中で私達は再び物づくりの姿勢を知っていただきたく参加させていただきました。

## ● モニターの声 (株式会社 栗本鐵工所)

- 災害時にどんなことがおきるか予想されない事態に対し、予想以上にファニチャー類がしっかりしていることに驚いている。
- 復旧興にたいし、再利用が可能である点に感心した。
- 地震後の資源の再利用という視点は、勉強になりました。しかし、どの程度地震を考慮にデザインを行うかというのは難しい問題かと思う。
- メーカー側の調査の検証と考察なので興味深かった。
- 報告に敬意を表します。
- 生々しい写真と良い話をありがとうございました。
- ストックになるものを提供して欲しい。
- 公共空間の施設物は最低限で良いと思います。いるか、いないか迷ったとき、それはいないものだと思います。
- 耐震だけでなく、火災や台風に耐えうる基礎構造を改めて検討しなおさなければいけない。
- 災害の影響をこのような姿勢から分析されていることに敬意を表します。災害、安全という観点から、業界がまとめ、ある基準なりが作られていったらと思います。
- 独特の発表方法でよかったと思います。発表の内容も。新製品はともかく、栗本鐵工所の主力商品or事業をOHPでPRされた方がより良かったのでは。震災状況は、見ている人には、ともかく、現地を知らない人には、あらためてわかって良かったのでは。
- ストリートファニチャーの耐震性について、今後とも研究を続けて下さい。またこの点についての新しい知見を広く皆に発表して下さい。
- ストリートファニチャーや舗装材等、震災をうけても再利用できる素材、形状等は、この機会に資料をまとめておくといよい。その資料は公開して頂きたい。再利用できるもの、デザインは、もっと検討しておくべきであろう。
- 大震災の教訓をストリートファニチャーに焦点を与えて検証することは意味のあることである。出来る限りその検証、考察結果に関する情報を公開して欲しい。
- 貴重な体験を大切にして下さい。
- 阪神大震災での被害状況を調査され、今後の物づくりを考察→会社の姿勢を感じる。今後の健闘を祈ります。
- 震災に限らず、災害に強い施設も大切ですが、復興しやすい施設づくり、つまり、もう一度再利用できる施設づくりをめざして、製品開発を要望する。
- 良い発表をしていただき敬服。舗装を含めSFは、ほぼ全とっかえを必要としているとの認識あり。ただ、いつそこまで手が回るか。
- ものづくりは基本的構成、常識的(普遍的)考え方等が大切。それを形にするのが、多くの人びとが支持するデザイン。
- 倒壊等によって生じる被害を最小限にいとめる努力は尊いものですが、同じ物づくりに携わるものとして、形あるものはいつかは壊れるという姿勢でのぞむしかないように思います。あらねばならぬ道路や橋をつくっているわけではなく、あればより良いものをつくっているのですから。
- 心なしか暗い印象を受けました。
- とても参考になりました。
- 頑張ってください。

出展企業名	日本電池株式会社
-------	----------

住 所	〒601 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地	
電 話	075-316-3073	FAX 075-316-3072
プレゼン出席者名	寺田三平 吉村健二	



## ● プレゼンテーション要旨

都市空間における照明は、その都市に住む人、街路を歩く人、都市の一部を眺める人などに、都市を美しく見せる照明、都市を明るくする照明、景観を彩る照明でなければなりません。これら景観照明の要求が高まって数年になりますが、当社においてもこの分野への取組みを強化するなかで、“人と自然と光環境の調和”と“快適な光空間の創造”を目指し開発コンセプトを『人と自然に語りかける光』をテーマに開発した都市景観照明用ポールライト<ルミオーブ>を提供します。

景観照明の役割は、不快なグレアを生じさせることなく、必要なスペースを明るく照明することに加え、照明器具として環境に調和したデザインである事が条件であります。人の心と豊かな環境に語りかけるあかりを求め、省資源・省エネルギーにも配慮して設計しています。

日本の自然美の象徴として「竹」をモチーフにし、しなやかな強さ・美しさをベースに普遍性をもたせたデザインを実現しました。<ルミオーブ>シリーズには、次の5つの特長をそなえています。

- 1) 人に優しいあかり
- 2) 適質・適量・適所・適光
- 3) バリエーションが豊富
- 4) 小型・軽量化を実現
- 5) 優れた耐食性

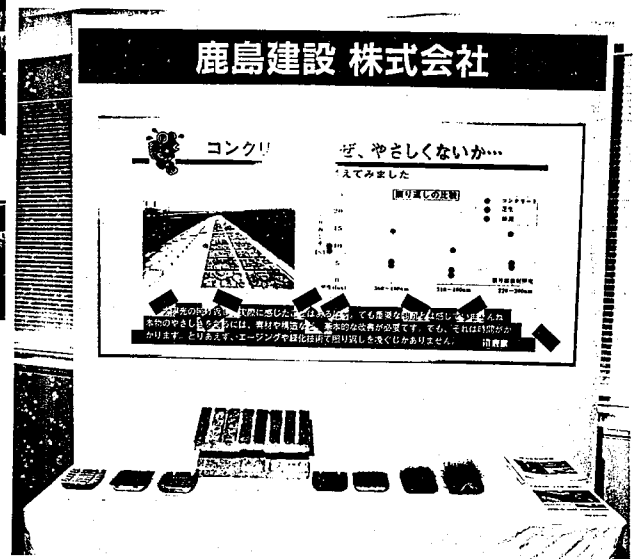
これらの特長を活かし、都市の空間を快適に美しく演出していきたいと考えています。

## ● モニターの声 (日本電池 株式会社)

- 自然素材をモチーフとしたデザインは良い。モチーフのとらえ方として、自然のもつ、もっと広範な意味を取り入れることが出来ればもっとよい。例えば、自然素材のもつしなやかさ、節目(年齢)、四季の変化にも着目したデザインに挑戦していただきたい。
- 夜間にどういう感じになっているか、見せて欲しかったです。竹というよりは、ロボコップ的な、無機質的な感じを受けました。
- 竹から発想されたそうですが、少しこじつけているように感じる。もう少しすっきりできるのでは。人をひきつけるようなプレゼンテーションではなかったと思う。もう少しコンセプトをはっきりさせて欲しい。
- 支柱部分をもう少しスリムにできないか。街路歩道部に利用する、公園に利用する、建築に付属されるetc. どういった場面で活用されることを「想定しているか、はっきりしない。照明のプロ以外に解説するためには、意識した用途と効果を示すこと。
- デザインは良いが、竹のコンセプトには無理があるのでは。カタログ構成として夜景に加えて連続的な風景もあると良い。80~120万の価格は少々高い気が致します。
- 公園、植栽帯に良い物と思います。道路上に設置するについては、アルミ製品の為、キズ、自動車接触事故に対しては?です。
- デザインのバリエーションと合わせて価格のバリエーションを考えては。
- デザインは、屋外に設置するには少し細かすぎないかな。点灯している状況の理解できる写真を見せて欲しかった。
- 竹をモチーフにしたデザインは面白いと思う。全体として“ひかえめ”なデザインにおさえている事には好感を持ちます。ただし、結局大事なのは“照明器具デザイン”ではなくて、“照明デザイン”だと思います。
- ルミオーブ: デザイン、機能ともに、基本的なところをよくおさえていて好感が持てる。但し、ポールはマット塗装の方が良い。デザイン上“竹”を意識する必要なし。それがなくても良く出来ている。
- あまり竹のイメージは受けない。カタログに夜の姿はわからないのは、まずいように思う。  
↓ 照明以外の用途との組み合わせ(例えばサイン)を考えたらどうか。  
あまり、この種のコンセプトや言葉や引きづられない方が良い。下手するとへんなデザインになる。
- 狙いはよいと思います。ただ「竹」といってしまうと展開がかえって少なくなります。高さは、3,000が限界ですか? バナーと組み合わせることはできますか?
- 光そのものが、どのようになっているのか。一カタログ表現に点滅状態を入れて欲しい。ランプ表示(MQ S70W) — どのようなランプなのか。照明関係者しかわからない。
- 省エネルギー、省資源、資源の回収という基本コンセプトについて、より明確な提案が必要ではないか。
- Wが小さいので、歩道などWの大きいものは使えないのでしょうか。Wの大きくて本体の径の小さいものが欲しい。
- 地球にやさしいとうたっているのだから、どれだけの事をしているのか、資料を提示してもらいたい。
- パーツによって変化のある形をつくるのは良いと思います。他の商品もこのような考え方を取り入れて下さい。
- 環境負荷への配慮が開発コンセプトにあったが、製品化にあたっては特に感じられないので延べるのは適切でないと思う。光(夜間)イメージが把握しにくい。
- 上下光の特色があるにもかかわらず、その具体的な展開イメージがしづらい。特に上向き光が。光源が見えない時の効果は、もっと事例を通して伝えるべきだと思う。竹のイメージも強引です。ジョイント部が繊細なスリットに対して雑な印象。
- 夜の点滅風景が見たい。
- 照明器具を景観要素の中で、主役でなく、脇役としてデザインしたこと(意図と違おうとしても)が、使い易さを実現していると思う。他の景観要素との組合せを、そのメーカーと協力して、複合的器具をつくり出すことで、その視点を広げ、展開できると思う。
- 器具のデザインは優。企業および主力製品の説明が不足。もう少し詳しい資料がほしい。

出展企業名	鹿島建設株式会社
-------	----------

住 所	〒107 東京都港区元赤坂1-2-7	
電 話	03-3404-2011	FAX 3404-8723
プレゼン出席者名	町山公孝 柵瀬信夫 功刀欣弥 伊藤信和	



## ● プレゼンテーション要旨

鹿島では、環境教育という視点から、企業活動で得た知見や技術を社内のみならず社外へも社会還元という形で提供する事を実践しています。

環境問題の解決には、規制・環境保全技術・環境教育の3要素で対応する事が求められています。この中で環境教育は、その主旨が充分理解されていないため、我が国の企業ではあまり重要とされていません。

この環境教育では、6つの目標が設定されています。それは、1 関心、2 知識、3 態度、4 技術、5 評価、6 参加で、この目標に沿って戦略を練り、具体的に行動する事が基本になっています。

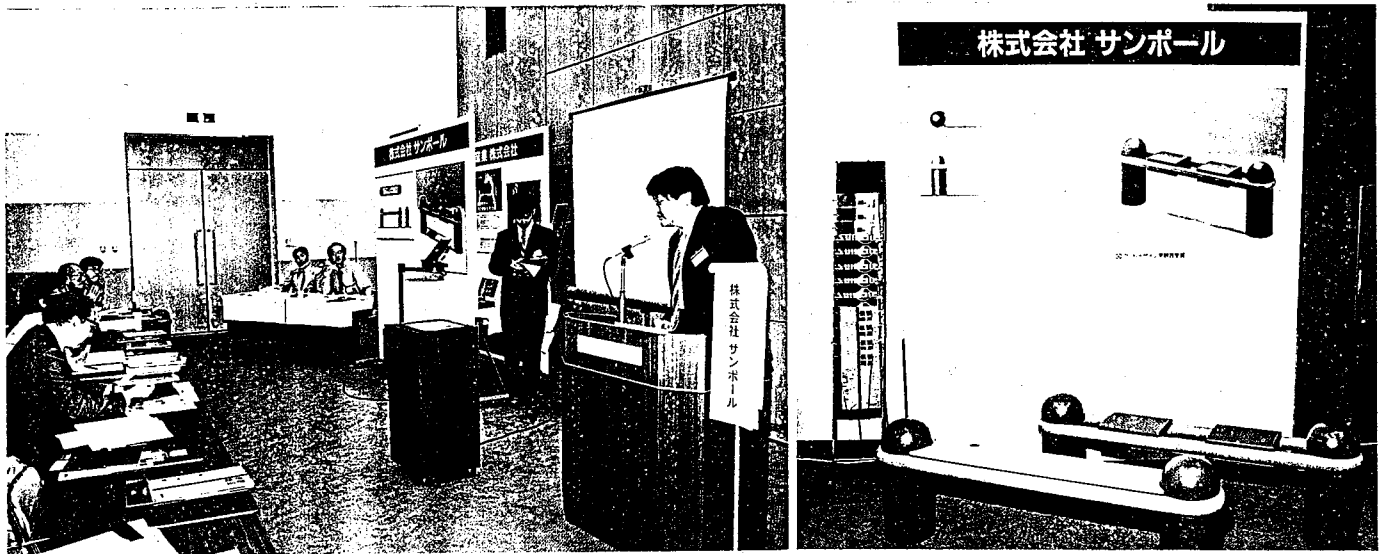
今回は環境を司る太陽との共存をテーマに、身近な問題になっている「コンクリートがなぜ、優しくないのか」について追いかけてみました。その結果の一つとして、コンクリート構造物の照り返しと、その防止方法を紹介します。

## ● モニターの声 (鹿島建設 株式会社)

- コンクリート素材そのものについて、自然素材により近づけようとする試みは素晴らしいと思う。
- 興味深かったです。本質論からはいっているから、これから広がっていけるものなのかとも思いました。これが利用されるようになれば、ヒートアイランド現象も防げるでしょう。
- 大変興味もてる話でした。今日の話とは関係がないのですが、日本の大手ゼネコンの1社として、今後の日本をよりよい国（より自然に近い国）にしてほしいです。開発して、人工的な構造物はさけてほしい。
- 大変面白い内容ですが、何故コンクリートに適用できる手法なのか（逆に言えば、他の素材ではダメなのか）について、説明してくれないと本質的な部分かわからない。
- 大変価値のある研究だと思う。ぜひ実用化して頂きたい。
- 熱を吸収する色が茶色であるとした時、その吸収したエネルギーは、夜間の熱放射について？  
コンクリートに芝の発想は面白いと思う。
- コンクリートに芝が生える、面白い。
- 深い議論で、論点に大変興味を持ちました。製品化が楽しみです。
- 大変面白くわかり易い説明でした。製品化を期待しています。
- プレゼンテーション技術、最高！ 鹿島の硬さを感じない。
- 硬い構造物のエイジングには大変興味をもっています。加えて、コンクリート素材に強度とともに保水性をもたせられないか。
- 先ずは、安易にコンクリートを使う技術を反省すべきである。建設会社としては、土だけで工夫することで技術料をもらうことを考えても良いのではないか。コンクリートの内部への影響はどうか？
- 保水、吸水の関係をもっと知りたい。プレゼンは楽しく、奥深く興味を覚えた。
- 照り返しを防ぐ＝光の反射が減る。夜間暗く感じる。  
→道路用素材とする場合には、夜間照明効果にも配慮願いたい。おもしろかった。
- 単なる素材の処理という発想でないところが素晴らしい。ワクワクするような製品となることを期待します。
- 保水性がよいとか透水性があるとかで、コンクリートの強度、劣化に影響はないのだろうか。
- これからもどんどん研究して下さい。
- おもしろかったです。
- プレゼンテーションが明快でわかりやすかった。エコシステムも最初からパーツとわりきっているのが安心した。説明にあった“対処療法”自体のエイジングについて知りたかった。（室内の微細藻類の時間変化や肌ざわりなど）
- ドライな街の中でウエットな環境をつくることは、なかなか容易ではないので、強度、耐久性の点を付加して検討して頂きたい。（計画中で悩んでいます。）
- 興味あるプレゼンを聞いた。素材から都市の構成材料（公共施設の躯体や、建物の外壁仕上材）まで広げた展開を期待したい。楽しみにしています。
- 説明が分かり易く、面白かった。非常に将来性のある研究だと思う。

出展企業名	株式会社 サンポール
-------	------------

住 所	〒730 広島市中区南吉島2-4-5
電 話	082-244-4689 FAX 082-243-5914
プレゼン出席者名	脇坂和彦 宮本由基 長野 樹



## ● プレゼンテーション要旨

サンポールでは、92年に狭い空間でも設置できる奥行260m/mのベンチSP-600シリーズを発売致しました。

企画の背景としては、建設省の道の駅計画をはじめとする都市空間におけるアメニティの向上の一翼を担う事を目的とし、開発されました。

おかげ様で同年の通産省選定グッドデザインにおいてベンチでは初めて景観賞をいただくことができました。

発売以来3年がたちますが、施工先などを調査致しましたところ、かならずしも私共の意図したとおりに使用されていない事がわかりました。

この様な現実をふまえ、皆様に施工例の御報告とともに、同じ製品でも、ロケーションにより様々な表情になる事も、御報告させていただければと思います。

又、この度SP-600シリーズに木製の座部を使用した物を加える事となりましたが、木という素材について皆様がどの様なお考えをお持ちか、又、ストリートファニチュア（ベンチ等）に木を使用する事にどの様なお考えをお持ちかお聞かせ願えれば幸いです。

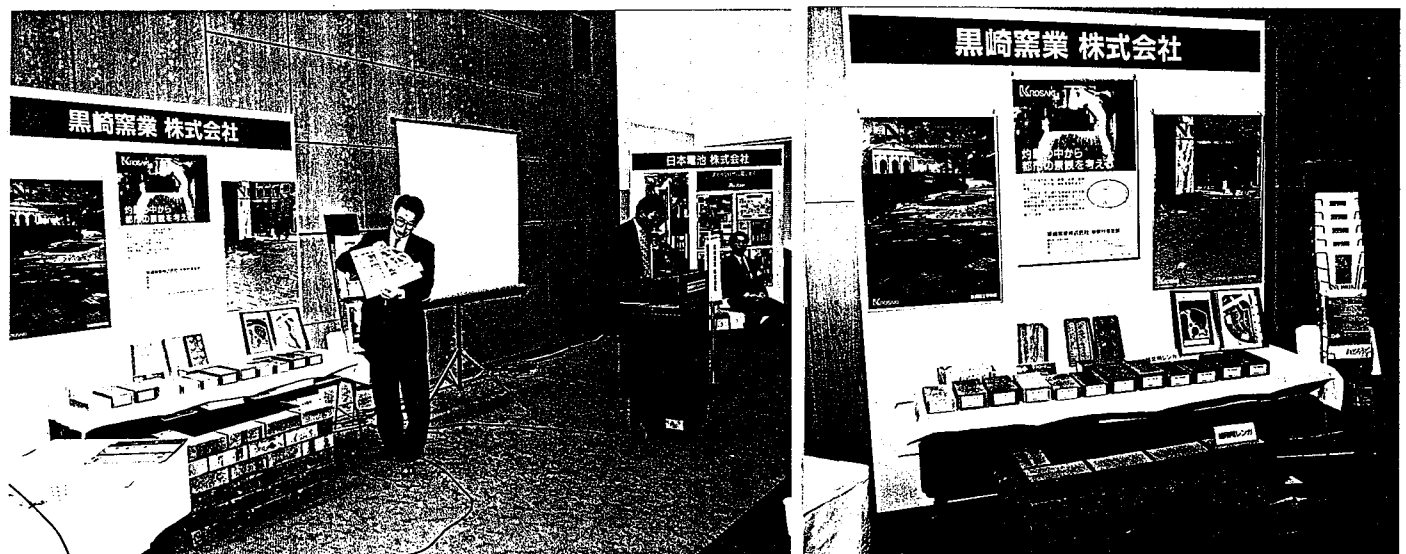
## ● モニターの声 (株式会社 サンポール)

- 木材…外構部品としては、やはり適切な素材と思う。今日では、都心の素敵な広場だけでなく、地方の誰も寄らないような河川公園、森の小径なども景観的に必要な価値をもってきていますが、そういったところの需要も捨てたものではないと思います。もっと木材をワイルドでスマートに使用した、安価なベンチ、外構製品を開発してもらいたいと思います。
- どうして、そのような色にしてしまったのでしょうか？既存の公園・川辺にベンチを合わせたものも規格品でつくって、並行にしたらよいのではないかと思います。
- サンポールさんの作っている商品は広場や道路にある一つのオブジェになっている。ある場所には、それが十になるが、一にもなる恐れがある（主張が強すぎる）。使う側（市町村etc）がもう少し勉強すべきなのでしょう。
- 配置例を含めたパンフレットづくりを指向されてはいかがでしょう。又、木材の利用について物にすべきである。又、木材の開発と地場産業との関係を売るべきである。
- 設置環境と道具の関係を考慮した製品作りや、カタログ作りを推進されることを望みます。
- 石や金属は生理的に好き嫌いがあるが、木は座りやすい。
- 都市デザインの面から見ると、やはり、すっきりしたもの、少しやぼったいものなど、あくまで屋外の寸法・尺度にあったものを求めたいところです。
- デザイナーの側にも問題はあるのですが、逆にメーカーサイドでデザインされ過ぎていると個性が強すぎて使えないという事があります。もっとベーシックで何十年たってもアキのこないシリーズを考えて欲しいと思います。
- 形態として非常に個性的（素材感ともに）であるので、使用方法が限定される。したがって、都市的なファッションナブルな位置に適する。
- もう少しファッション先行より“座る生理性”があっても。
- ベンチ以外のものとのデザインの共通性はあるのか？組み合わせ利用の可能性があると思う車止めかというデザインではある。そういう使われ方も良いではないか。ベンチ以外として使われ方はないのか？
- 本当に人々が利用している様子の写真を撮るべきだ。木材はともかく、座りごごちが冷たいのは良くないのではないか？
- 木はよい材料です。朽ち果てるのは当然です。塗りかえたり、取り変えたりしましょう。座板の石、金属の温度（熱伝導）を check（測定）して下さい。
- プロダクト的過ぎる。（設置場所によっては、周囲とマッチ）周囲に似た素材を使っている場所。
- 木材もその場所や枠、縁の素材との組み合わせで、するどくもやさしくも感じるため、置く場所に合わせて木材やその他の素材と使えるように、パーツ的な商品をつくってほしい。
- 想像と現実のギャップに負けないで下さい。
- このようなメーカー側から見た使い方の見直しの発表をもっと行ってほしい。
- 単に商品を売るだけでなく、設置場所、周辺環境を含めたプレゼンの必要があるのでは。
- 「座り易さ」は「座り難さ」に通ずる。会場で岡本太郎の「座ることを拒否する椅子」が否定的に引用されたと思うが、凸面上だけでなく、他の形状も含めた、バラエティがあってもいいと考えている。既存の椅子で、座り疲れるものが多い。その逆を追及することが屋外のベンチにあっていいと思う。
- デザインはかなりスマートで良い。木材を使用する場合は、部材の交換のし易さと低コスト化が必要。



出展企業名	黒崎窯業 株式会社
-------	-----------

住 所	103 東京都中央区日本橋兜町15-6
電 話	03-3669-0611 FAX 03-3663-0824
プレゼン出席者名	堺 裕祐 本田雅也 小野 務 柏原幸雄 昼田真吾



## ● プレゼンテーション要旨

クロサキは大正7年の創業以来、総合耐火物メーカーとして常に業界をリードし、鉄鋼業を始めとする我が国の基幹産業を支えてまいりました。

そのクロサキが、耐火レンガの製造を通じて長年培ってきた材料評価技術をもって、数ある舗装・建築用レンガの中から選んだのが、このオーストラリア産レンガ“NUBRICK（ニューブリック）”です。まさにレンガを知り尽くしたクロサキが、自信を持ってお届けする景観材料と言えるでしょう。

NUBRICKは、数多いオーストラリア産レンガの中で、抜群の品質・豊富なカラーバリエーション・経時変化への対応力などどれをとっても最も優れた材料です。これは、レンガの本場オーストラリアでの実績がNO.1であることにも表われています。

また、クロサキは単なる輸入総代理店ではなく、あくまでもレンガのことを総合的に考えていくメーカーであり続けたいと思っています。

- ・クイックデリバリー（在庫常備）
- ・デザインサポート
- ・施工についての啓蒙活動と省力化支援

等は、いずれも景観材料としてのレンガを使いやすくし、皆様に喜んで使って頂けるためのお手伝いです。

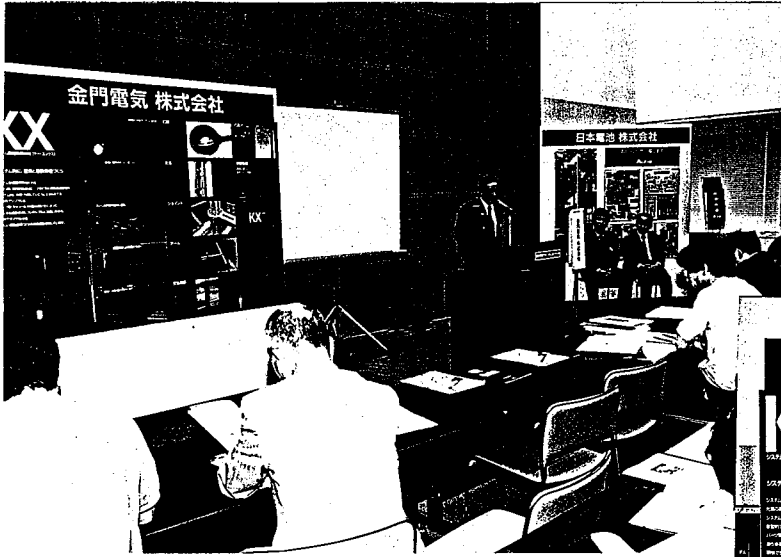
いつまでも変わらない、本物だけが持つ質の高さ—『地面に豊かな表情をつくる』—を基本コンセプトとして、クロサキの景観材事業部は、今後とも魅力ある都市景観創造のため、人と環境に調和する製品をお届けしてまいります。

## ● モニターの声 (黒崎窯業 株式会社)

- 点字ブロックに対して興味を持ちました。例えば、点字ブロックと同じ色トーンでありながら、乱反射するような素材を組み入れて焼いてはどうでしょう。また、プール等に使ってはどうか。
- 今後のレンガの使われ方を期待します。
- 日本製のものとの違いについて、もっとはっきり説明することが必要である。
- 均質に見えないところが屋外には、重要だと考えています。
- 値段がポイントでしょう。
- 丈夫で永持ち、プラス、レンガ特有のエージングの良さを強調して下さい。  
(アジはどのくらいでるか)
- 外国ではレンガの再利用が行なわれていますが、それを前提とした工法をPRして下さい。
- なぜ自ら焼かないのか？国内でも国外でも…。レンガのエージングは、むしろ期待しているところがある。逆の方向になってないかどうか吟味する必要がある。
- 弱視の人たちのコントラスト付けについては、東京都立大学土木工学科秋山哲男先生に聞くと研究成果があります。
- ¥8,000/m<sup>2</sup>ならどんどん使いましょう。レンガは人に優しい舗装材として素晴らしいと思います。
- ベンチャボラードなども合わせて取り揃えてはどうか。
- 日本の一般的な商店街、街並みにレンガの色がなかなかなじまないが、何かもっと肌合いを大切にしながら画期的な色はだせないのかなあ。瓦みたいな色とか。
- 役物にバリエーションが欲しいところです。
- 外構部品としては、植込プランターなどのように製作マニュアルとともに少し加工した部品として製品化することは考えられないか。組み立てるとベンチになる、ゴミ箱になるなど。
- やはり、照り返しを防ぐ、目にやさしいことが基本であると思われる。焼き物であるわけだから、炭色系統の色があっても使えると思う。
- 一つの素材としてのタイルを、他の素材と組み合わせて特徴をだす、セールスポイントにするとどうでしょう。
- 製品の性能は十分分かるが、それを使おうと思わせるための何か別の売り込みが必要ではないかと思った。

出展企業名	金門電気株式会社
-------	----------

住 所	〒173 東京都板橋区板橋1-53-2 TM21ビル
電 話	03-5248-4811 FAX 03-5248-0019
プレゼン出席者名	渡辺治久 山岡恒男 菅原文雄 樋笠正文



## ● プレゼンテーション要旨

今日の都市空間は、機能性のみならず快適性が重要な課題として取り上げられ、各地の都市整備において様々な環境デザインの試みが行なわれています。この様な時代の要請を受けて道路用の照明機器も変容しつつありますが、従来の製品群は依然として類型化された造形スタイルと構造に縛られています。

このKXは、こうした状況を打破するものとして企画され、道路の風景をトータルにコーディネートするとともに、地球環境への適合性をも視野に取り込んだ全く新しい景観構成装置として計画されました。

道路上の様々な装置類（道路照明、歩行者照明、信号機、標識、各種管理用機器等々）を一体的にまとめ、煩雑な道路景観に調和を生み出す事を目的として、従来の複合柱を超える多種多様なアイテム設定を可能とする高精度なダクティル鋳鉄のジョイントシステムと、スケルトン構造のリングジョイントにより将来的な機能変化にも対応します。

照明効率だけでなく快適性も合せ持ったグレアカットタイプの照明器具を設定し、ポール基部にはディティールの豊かな表情性と張り紙防止効果を持つ縦縞鋼管を採用しました。塗装としては、フッ素粉末塗装やセラミック塗装といった無溶剤の塗装を設定し地球環境に配慮しました。

以上のように道路空間に新たな秩序を与えるデザインのKXはシンプルでスレンダーな形態で都市空間の脇役として風景を引き立てます。

● モニターの声 (金門電気 株式会社)

- 一般的にはこれまでの角柱、円柱状のものの中では、新しいデザイン性と思う。
- 道路標識、信号などが組み合わされて付いた場合には、仲々、当初のデザイン意図を保つのは難しそうです。
- 規制標識を一括するための柱はよいと思います。個人的には、柱が途中で2本や3,4本にわかれるのではなく、1本で違う形状にしたらよいと思います。
- 共架アーム、歩行者信号用は、プラモデルみたいな感じがしました。あまり好きにはなれません。
- 信号機濃絵の照明、P4~5の道路、歩道の2つの照明は必要なのか？
- 照明は1本の道において、かなりの本数が必要になるのでファッション性というより、邪魔にならない照明の方がいいのではないかと…。
- 支柱の底部のデザインにもっと工夫しないと、全体のイメージがダウンすると思われます。
- シンプルでスマートなデザインなので場所を選べば面白い照明となるだろう。ボルト類が多く、施工が難しそうだが？
- 農村部というか、自然要素の強い環境によく合う支柱のデザインもよろしくお願いします。
- デザインは非常にベーシックで、ひかえめで良いと思います。ポラードやバス・シェルター(サイン系)等とのシリーズ他を考えたら面白いと思います。
- ジョイント部の構造・デザイン、大変良い。今後より細部のデザイン洗練を期待します。(特に歩行者用信号や道路標識のとりつけデザイン等)
- 4本というのはうるさくないか？3本あるいは2本ではどうか？基部の高さが人間(子供を含む)の眼にとって高すぎるということはないか？パンフレットP.4は相当低く見える。もう少しデザイン的に詰めると良くなると思う。
- 美しいポールと思います。益々よい商品をつくって下さい。
- 非常にスマートなデザインである。基本的な機能をそなえ、かつ、うるさくなくて良い。セミ・カットオフタイプだけでなく、フルカットオフタイプも欲しい。
- とてもよい。2本とか4本とか考えてみて下さい。
- カタログが良かった。が、こまかいですが、1ページめの黒い紙は指紋がつくので紙は慎重に選ぶべきと思いました。灯具の形状が、支柱のシンプルさに比べて甘いように思います。
- スマート性が乏しい。重厚すぎるのでは？
- 興味ある着想、好感もてるフォルムと思う。見る様々な人にどう感じられるか、何が便利かを技術的追及にプラスして環境的にも追及してほしい。
- 製品そのものは、かなり良さそうに思う。説明が今一つ説得力に欠けていた。

出展企業名	岩崎電気株式会社
-------	----------

住 所	〒105 東京都港区芝3-15-13 YODAビル
電 話	03-3769-8415 FAX 03-3769-8451
プレゼン出席者名	杉浦 稔 佐藤敏夫 藤木孝義 蒲生 等 赤木尚輝



## ● プレゼンテーション要旨

都市環境にとって、高効率なHIDランプの役割はますます需要になってきました。ここでは、照明空間の快適性から「ハイラックス」、「ツインアーク」を、安全性や信頼性から「FECサンルクスエース」を紹介します。

(1) ハイラックス：高演色、コンパクトHIDランプ。50Wから150W、Ra85、色温度2500Kの高圧ナトリウムランプとRa96、色温度3500K、4500K、6500Kのメタルハライドランプがあり、さまざまな照明環境が創出できます。メタルハライドランプにつきものの紫外線を極力低減し、商品の退色を防止します。

(2) ツインアーク：一つのランプに2種類の発光管（水銀ランプと高圧ナトリウムランプ）を内蔵し、ランプ交換なしで、季節や時刻にあわせて、白色（水銀ランプ）またはオレンジ色（高圧ナトリウムランプ）のランプ光色を自由に選択できます。

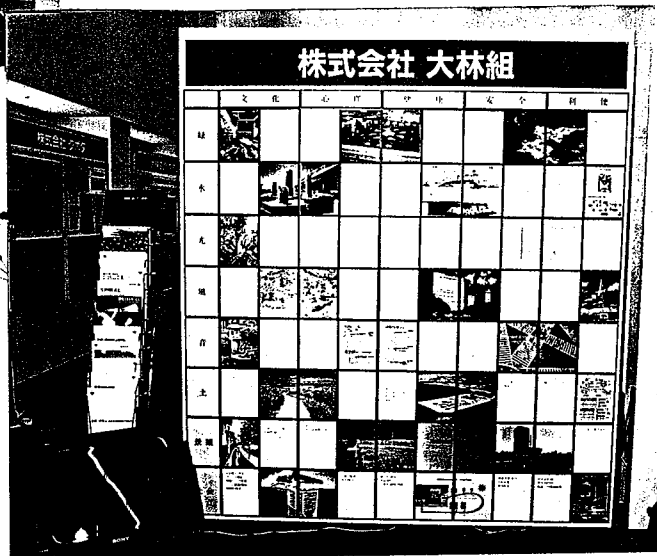
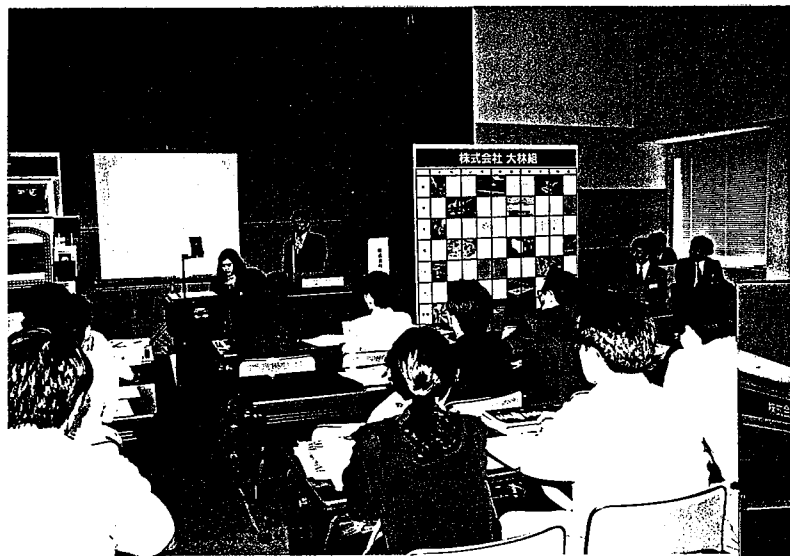
(3) FECサンルクスエース：高圧ナトリウムランプを点灯するには、一般に高圧パルスが必要とする為、水銀ランプの50~70%の電力費にも拘らず、パルスの危険性がランプ普及の妨げの一つになっていました。そこで、ランプ内始動器として、電子スタータFECを世界で初めて開発し実用化致しました。必要最小限のパルスで点灯でき、不要なときはパルスが自動停止する安全設計になっております。

## ● モニターの声 (岩崎電気株式会社)

- 光源を実際に点灯させて見せた方が、理解しやすいと思う。
- ランプ採用の大きな理由は耐用時間があり、酔い光り、省エネ、長い寿命を心掛けて下さい。
- 高圧ナトリウムランプの光色がどれかわからない人もいるので、プレゼンテーションできちんと説明したほうが良い。パンフレットにはあるけれども…。細かいことはわからないけれども、欧米の照明は赤っぽいのが多いが、あれと同じなのか??それなら悪くないように思うが…! ガス灯に近い光といえるか?
- 少し話が専門的すぎてわかりにくかったのではないのでしょうか? もっと光がどう見えるか? コストはどうか。寿命はどうか? といった話を聞きたかったと思います。
- 高圧ナトリウムの色と価格が問題だと思う。パルスの低い良い製品だと思うが、パルスを使う点は同じではないかと思う。
- 日本にナトリウム灯が普及しないのは、日本人の生理的色感によることではと思いますが?
- ランプのことは詳しくないが、電気量や寿命などやメンテで問題なければ高圧ナトリウムランプは使うのに無理はないですが。
- 水銀ランプが多いのは、多分、寿命なんじゃないかと思います。景観的な理屈は、役所では効率、機能の次になってしまう傾向があるからです。
- パルスの改善はその意味で有効ですが「寿命と価格」という、メンテナンスが水銀に勝れば、あっという間にナトリウムになっていくかもしれません。景観的な意味で納得して頂けないのは、私どもコンサルの一責もあるかと思います。
- ナトリウムランプの利用は今後増やしたい。
- 屋外型の電子安定器の早期商品化を希望します。ただし、あまり大型化してはメリットが少ないと考えます。
- 日本では、明るさを追及することが多いと思う。イセザキモールの2期(3、4丁目では)「見える光」をつくらうとして、輝度をおさえた。公共空間における「見る光」を売り込むことが必要と考えている。デザイナー、メーカーともその視点を強調すべきではなからうか。眼の健康との関係も明らかにしてほしい。
- 専門的なことなのでよくわかりませんでした。ナトリウムランプと、水銀ランプの普及の違いは、日本人の瞳の色と外国人の瞳の色の違いということはあるのでしょうか?
- 海外でよくみられる高圧ナトリウムランプは周囲の物がよく見えない為に眠気をさそいやすいように感じる。発光色がオレンジということで、温かみのある色でもあるので、利用する場を考えれば十になるのでは…。
- 専門外のデザイナーとしては、説明が分かりづらい。もう少し、事例を利用して解説して頂ければ…と思いますが。

出展企業名	株式会社 大林組
-------	----------

住 所	〒101 東京都千代田区神田司町2-3	
電 話	03-3292-1111	FAX 03-3219-7644
プレゼン出席者名	原田州堂 塩田泰之 後藤達雄 高橋真季 塩田耕三 小宮英孝	



● プレゼンテーション要旨

昨今、大規模開発はもとより、市街地の開発から単体建築に至るまで、計画を行う際の最大のテーマは、如何に環境と調和させるかということです。環境に与える負荷を極力軽減し、同時に、自然や景観等の望ましい環境を保全しつつ新たな環境を創出していかねばなりません。そこには、数多くの環境共生技術が介在してきます。

当社では、大規模開発の際の計画手法の一つとして、環境共生の目標設定とそれに対応する要素技術の選択が出来るシステムを開発しております。このシステムは、環境に関する情報と前出の環境共生要素技術の2種類のデータベースを備え、これに環境負荷軽減と環境創出の2面からアプローチ出来ます。

負荷軽減に関しては、エネルギー、省資源廃棄物の3つの評価項目を通して要素技術を抽出します。環境創出については、環境を構成する8つの要素と、アメニティの基本となる5つの分類からなるマトリックスに114の評価項目を設定し、それにより計画手法や要素技術を検討します。各々の評価項目には、各行政庁の環境データや関連する情報がリンクしています。通常の大規模プロジェクトの作業と並行して、環境共生計画を進め、プロジェクトチェックを行うことによって地球にやさしい開発計画を実現します。

個々の要素技術だけでもご利用頂けますが、システムとしては、モニターの皆様からご意見を頂き、完成度を高めて行きたいと考えております。

● モニターの声 (株式会社 大林組)

- 実際の仕事、個別のPROBLEM←→SOLUTIONの相互作用で個性的な解決が生まれるのではないが、総合点は取れるが、魅力のあるものとするには、飛躍出来る考え方が必要。
- チェックリストとしてはよいが、具体的手法フィージビリティスタディのネットワークがない。そしてその影響度、結果予測も必要となるでしょう。
- 何だか良くわからない。環境共生とは、文化と相反する可能性もあるし、自然的な材料を使うということは、どこかの自然を破壊していたり、その輸送のために膨大なコストがかかることもある。ドイツで盛んだが、良いと言っていたプロジェクトが批判の対象になっている例もある。
- パソコン用のフロッピーなど売りだされたら面白いと思います。設計事務所に売れると思います。データのアップデートはどのくらいの期間でやるのでしょうか？
- 環境を考えるためのチェックリストは、計画者経験やその現場の計画条件によって大きく変わるため、毎年変化する環境に対する人々の意見を入れて作り直して欲しい。
- チェックリストは表と裏になっていると良いと思う。いいことばかりの表ではなく、アメとムチで「A項目」については「A事項」が影響として起こる。というような2つの視点が常に並行するべきだと思います。政治家の公約みたいでは、あとでつつかれると思います。
- 環境共生の計画とチェックリストの相互関連性をはたして評価出来るのだろうか？あくまで、チェック機能として評価しておくべきでは。
- 文化面、心理面でのチェック項目は内容の組み立てに注意が必要。
- フロート化することによって、十になった実例がまだない為はまだ評価することは難しいが、この方法によって都市の環境がよくなれば良いと思う。大手会社が日本に与える影響は大きいので、開発に際して十分配慮してほしいです。
- 技術力を十分に保持しえないグループに対し、こうしたチェックシステムが公開されることは非常に有意義であると思われしますので、是非、一般に手が届くようにして頂ければ幸いです。  
(出版、CD-ROM化)
- パターン化することによって、何のメリットがあるのか。本来の道をそれてしまう可能性はあるのでしょうか。いまいち良くわかりません。



出展企業名	カネソウ株式会社
-------	----------

住 所	〒512 三重県三重郡朝日町大字縄生81
電 話	0593-77-3232      FAX 0593-77-3905
プレゼン出席者名	石川文和 石垣 毅 安藤将剛 松岡裕和



## ● プレゼンテーション要旨

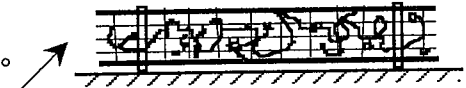
カネソウでは歩行者の通行を安全にかつ快適にする横断防止柵「アーバンガード」、防護柵の機能と簡易的なベンチの機能を兼備したベンチ柵「アーバンサポーター」、人々に快適な休息場所を提供するベンチ「アーバンベンチ」の開発を行いました。「アーバンガード」は2種類デザインを設定、横断防止柵はその機能上連続して使用するため、圧迫感などがないシンプルなデザインとしました。また、支柱の材質は取付作業のしやすさを考慮して、アルミ鋳物あるいはスチールパイプを採用しました。横柵パイプは専用の固定金具を使用してパイプを挟み込み、ボルトで固定するだけで簡単に取付が出来ます。また、独自のフレキシブル構造により路面の勾配を約±10度まで吸収することができます。「アーバンサポーター」は腰掛部分がシートタイプのもものとパイプタイプのもの2種類の計3種類のデザインを設定しています。シートタイプはこれまでのベンチ柵にない新しいタイプで駅前広場などに最適です。「アーバンベンチ」は「アーバンサポーター・シートタイプ」と同じシートデザインを採用しているため一緒に使用すると統一感のある整備が可能です。また、これらの製品の横柵パイプあるいはシートにはステンレス製とスチール製を設定、設置場所や設置条件の多様化に応えます。カネソウでは都市景観を効果的に演出するデザイン、取付作業のしやすさを図り、人と都市の快適な空間を創り出していきます。

● モニターの声 (カネソウ 株式会社)

- 光反射テープを貼った車止め、ソーラーバッテリーの入った車止め—興味があり、以前カタログ請求致しました。昼間は目立たず、夜、目立つのは、良いと思いました。
- ジョイントのDETAILの工夫は非常によいと思います。
- 通常のガードパイプが美装化されただけのような感じを受ける。電柱や高圧送電線の美装化にも似た印象を受ける。もっと根本的な解決方法はないのか。最近、緑でおおってしまっている例もある。
- いすシートタイプは、どこで使うのかなという気がする。つる性植物の支柱的役割をするガードフェンスはどうだろうか？

土の幅は150~300mm/mで充分であろうと考える。

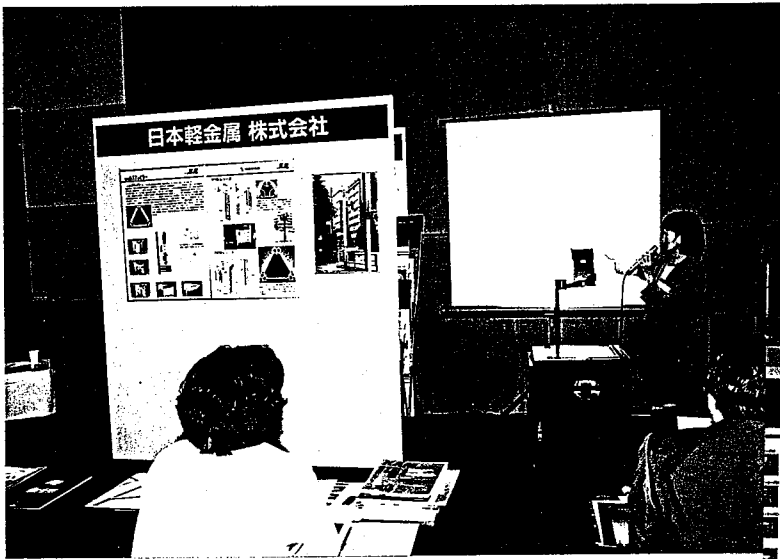
150~200メッシュ



- メーカー主導で現在の街並みデザインがなされているわけですが、何が「景観デザイン」かよ〜く考えて頂きたいとおもいます。
- 車止めの太いものよりスッキリしている。歩道側に出っぱりが無くてよい。
- 横断防止柵は人の横断だけでなく、車の乗り上げについても防止する機能もあるのでしょうか、その面の強度的な基準についてはパイプの固定法としては、はさみ込むほかにも上からおとし込むなどいろんな方法を考えてほしい。
- 強風時における騒音(パイプ)は大丈夫でしょうか。  
振動
- カタログデザインが、ゴチャついていてわかりにくい。
- 横断防止。人によってはまたいでも横断する。柵があることで横断者を減らす効果のあるものを作る…と発想することで、別のコンセプトが生まれる。車止めと、柵の中間で連続しないものなど…。
- アーバンベンチや、アーバンサポーターのようなものを利用したことがあります。冬に利用した時、非常に冷たくて、あまり座る気になれませんでした。素材の部分を考えて下さい。
- 「特殊部における製品」をご検討になるとよいのではないのでしょうか。交差点、緑化促進部、ポール類との一体化etc. プランター付
- 商品化して売り出すより、その場所に合ったものと考えて取りつけた方が(設計、デザイン、コスト面で安くすれば)よくなっていくような気がする。

出展企業名	日本軽金属 株式会社
-------	------------

住 所	〒108 東京都港区三田3-13-12
電 話	03-3456-9470 FAX 03-3456-9477
プレゼン出席者名	宮沢由幸 桜井洋男 三上 聡 田尻まゆみ 松本秀夫



## ● プレゼンテーション要旨

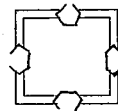
当社の新商品、「日軽システムピラー」を紹介します。

商品の特徴は、1本のアルミ大型形材が用途に応じて様々な使用が可能のように設計されている事です。用途を限定する事なく、アルミ材なので耐候性に優れている上、肉厚の押出材なので応力にも優れており、屋内屋外のあらゆる条件に対応でき、利用者側からシステムを組立てることができます。照明の柱、標識の柱として使用できるばかりでなく、情報内容に応じた大きさの案内板が取付けられ、さらに柱そのものが椅子の脚、テーブルの脚、車止め及び柵などに用いることができます。とくに三角形断面を持つP110、P210シリーズは、街路などに連続して設置される場合、頂点の向きを自由に設置することができ、その頂点のどの位置にも案内板や柵を取付けることができます。これによって、柱ばかりが乱立する公共空間を、柱の少ない広い歩行空間が提供できるばかりでなく、シンプルな形状のため柱そのものは目立たなく、必要な情報だけを際立たせ、景観をすっきりとまとめあげます。このほか、周辺環境に適合できるように、柱には木質材を挿入させたり、塗装や反射テープなどによって、演出や夜間の視認性の効果も加味できます。また、柱のエッジに挿入させているカバー材は、柱と別構造となっているため、現場でのさし替え、追加のジョイントの取付け等も簡単に施工できます。

● モニターの声 (日本軽金属 株式会社)

- 照明柱の素材として使ってみたい。システムとしては、展開が自由な分、買い手が形をつかみ切れない部分があるのではないかな。ある程度、ユニット化して売った方がよいと思う。
- システムとしてはよいと思います。デザインも優れていて素晴らしい製品です。
- なかなか面白いし、説明もたいへん上手で十分に理解できた。アルマイト処理の「地」としての考え方も良い。 エッジの取付けが上からというのは高いポールでは困るのではないかな。側面から入れる工夫はできないかな？細いタイプの方がスッキリしているかも知れない。中間サイズはどうか。 細いのは、Rがきついのではないかな？全体として一寸重たい感じを受ける。 抜け部分が欲しい。
- 非常によく考えられていると思います…が、こうしたものが街中にあふれる事が、街の景観デザインが良くなる事なのではないかな？景観のオーバーデザインにならないかな？良いのですが。
- 統一したデザインの道路関連のものが出来、可能性がある面白い製品を期待する。
- システム柱としては大変おもしろかったが、アルミの素材感と、整ったシステムの整然さで都市に置いても冷たく見える。でも木材やハニカム材なんかでいろいろ張っても何となく表面処理のかんがぬけない。
- 活用はマルチであり、デザインはシンプル、非常にユニークな景観材料となるでしょう。利用方法をさらに研究PRしてほしい。
- カバープレート類のデザインバリエーションの必要性が疑問。
- サイン板のデザインをもっと良いものにした方が良いのでは。
- 素材として、他のメーカーで使えない？ のは、なぜ？

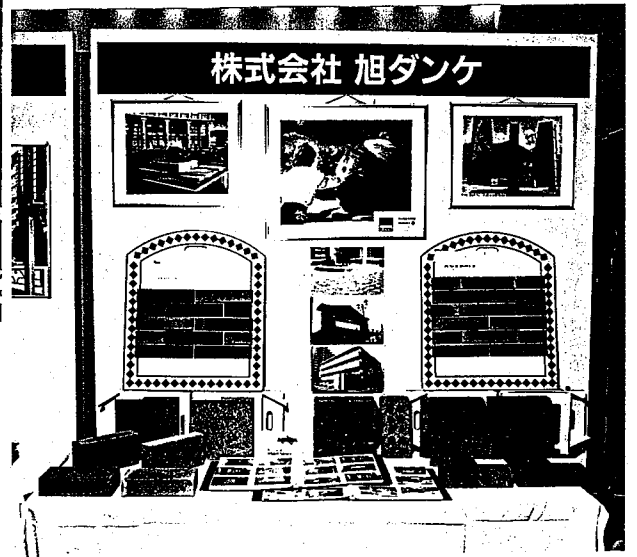
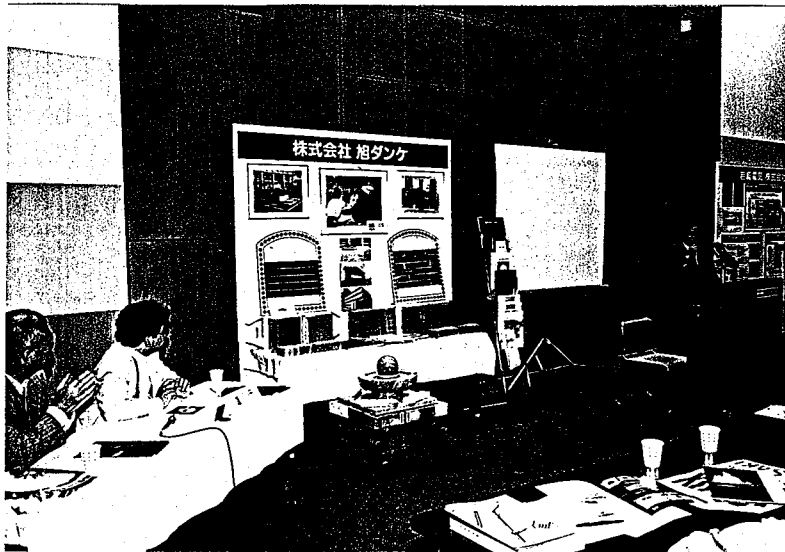
断面を四角くするのは？



- とても便利なものだと思うけれども、中空のふたとして、プランターを置くのだけはやめて欲しいです。どう考えても、マッチしません。
- 機能的な柱ということでは便利なものだと思いますが、システム化することで自然な状態とはかけ離れ、より冷たい印象を与えやすいと思います。
- システムとして普及させるためには、標準化して、他のメーカーの参入も許すことが必要だと思われませんが…。

出展企業名	株式会社 旭ダンケ
-------	-----------

住 所	〒003 札幌市白石区南郷通1丁目北4-4	
電 話	011-861-5777	FAX 011-861-5778
プレゼン出席者名	山下裕久 山本勝也 大谷寿美子 岡沢 均	



## ● プレゼンテーション要旨

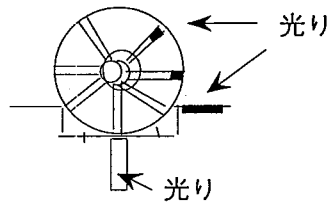
私共、(株)旭ダンケの進めております景観事業は、後生に受け継がれて行く公共エリアの中で、素敵な財産として多くの皆様喜んで、そこを訪れることが出来る場所づくりであり、さらには心に残るインパクトを生み出す事の出来る場所づくりを特に資材の面からお手伝いすることです。

今回、モニターの皆様方に評価を戴きたい点は、オーストラリア産オーストラル社製の敷レンガ、積みレンガ、張りレンガの色彩、テクスチャー等につきまして御意見を戴きたい点と、ドイツ産クッサー社製のフローティングクーゲルの特に色についての御意見を戴きたい点、そして最後に中国産、龍華社製の御影石の各種ストリートファニチャーのデザインにつきまして御意見を戴きたいと思っております。

今後、都市環境デザイン会議の皆様には色々な面から見た御意見を戴きながら、都市景観材料の商品開発に努めてまいりたいと思っておりますので、御指導を賜ります様に御願ひ申し上げます。

● モニターの声 (株式会社 旭ダンケ)

- 浜松駅前で1.5m大のフローティング・クーグルを見て、びっくりした記憶がある。おもしろい。
- 面白いですが、これが日本の都市を埋めつくしたらどんなになるでしょうか。
- こんなものがあちこちにあるのはどうかなと思う。ガラスのピラミッドがあちこちに出るのも興ざめである。あまりにも強烈なイメージなので、そんなに売れるとは思えない。私も、これは既に、どこかで見ており、これがあちこちにあってもどうかなと思う。見たことがある人が増えてくると、売れないのではないかと。応用編を幾つか考えていくべきである。
- 日本のなかで、これがいくつあるべきなのでしょう？トータルなスペースの仲で、これが置けるシチュエーションはあまりないのでは？と心配します。
- 玉の表面に絵などが描けないのですか。
- 透明樹脂で埋める。この様なことは出来ないか。



- 石が水で浮く方のモニュメントはこのごろよく見本市で見かけるので、会社としてプッシュするものだろうが。何か置くだけじゃなく新しい演出をしないとつまらない。あきられると思う。水は寒冷地で凍っちゃうとかはあるのだろうか。
- 面白いしくみだと思う。しかし、その魅力的なものが日本全国にあったら、価値が下がるのではないかと。一度にたくさん設置する案が話されたが、それも一度やられれば、柳の下のどじょうになってしまいますね。こーゆうものは、大変むずかしいと思います。他の利用がみつければー。思いつきません。
- 玉のり遊びをされると危険なので、その点を注意された方が良いでしょう。
- 球はおもしろいです。台座は石でなければならないのでしょうか。
- 写真にあるような角ばった基盤ではなく、もう少し考えて面白いデザインにしては…。
- 大変面白い素材であるように思われますが、高そうでね。

## I N F O R M A T I O N

この報告書に関してのお問い合わせは、  
下記にお願い致します。

'95都市環境デザインモニターメッセ運営事務局

運営事務局 DIRECTOR 山口弘一

運営・実施 A DIRECTOR 奥江邦宏

報告書編集 EDITOR 笠井庸子

団 株式会社 103 東京都中央区東日本橋1-2-3

TEL : 03-3862-1811 FAX : 03-3864-0396